

2022年度 事業報告書

学校法人 KOBE COLLEGE
神戸女学院



神戸女学院は2025年に
創立150周年を迎えます。

150th
Bridging Generations
150 Years of Excellence in Women's Education
未来を生きる人たちのために。

- 02 理事長・院長メッセージ
- 03 建学の理念・教育目標／設置学校・学部・学科等／沿革
- 05 大学メッセージ／中高部メッセージ

神戸女学院 事業報告

- 07 大学の事業報告
- 11 中高部の事業報告
- 12 法人の事業報告

2022年度のトピックス

- 13 大学の取り組み
- 20 中高部の取り組み
- 23 法人の取り組み

神戸女学院 基本データ

- 25 入学定員・収容定員・在籍者数
- 26 在籍者数推移
- 27 志願者数・合格者数・入学者数
- 28 留学状況
- 29 卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況
- 31 就職・進学状況
- 33 役員・評議員
- 33 教職員
- 34 事務組織図

財務の概要 - 2022年度決算 -

- 35 2022年度決算について
- 36 事業活動収支計算書
- 38 資金収支計算書
- 39 貸借対照表
- 40 財務比率の推移

事業計画

- 41 中期計画(2021-2025)
- 43 2023年度事業計画書公表にあたって
- 44 2023年度事業計画

お知らせ

- 48 理学館西側地域再整備計画概要
- 49 創立150周年記念募金を開始
- 50 校地・校舎

神戸女学院の新たな特徴を示すために



2020年春に始まったコロナ禍も、2022年度には収束の兆しが見えてまいりました。しかし、言うまでもなく、単純にコロナ以前への回帰ということではなく、新たな日常への認識を造り上げる時期を迎えたとの思いを懐いています。本学院でも、授業はもちろん、諸行事も2021年度までとは異なるルールの下で実施されました。学院の行事としては、7月の学院リトリートや10月に延期した愛校バザー、また中高部の宿泊を伴うプログラム、大学の岡田山祭などをあげることができます。縮小、制限されたかたちではありましたが、3年ぶりに実施可能となったものもあり、一同、学院に集う若き魂の成長のために、次なるステージに進めたことを喜び合いました。背後で忍耐して尽力くださった生徒・学生、教職員、めぐみ会、役員、関係者の皆様に感謝申し上げます。

次なるステージ——2022年度を顧みますと、中学部の4クラス化移行、中高部のGIGAスクールの準備、大学の新学部設置に向けた討議、キャンパスグランドデザインの再起動など、未来の神戸女学院のための足がかりとなる歩みであったと思わされます。これは創立150周年のメインメッセージ "Bridging Generations" の精神にもつながる営為です。

2023年度はタルカット先生とダッドレー先生の来日150周年、岡田山移転90周年、新制高校と大学の設置75周年、中興の祖デフォレスト先生召天50周年など、いくつもの記念の年にあたります。大学の学生数急減、財務の緊縮を始め困難な状況にありますが、改めて先人より継承してきた建学の精神を思い起こし、現在に学ぶ生徒・学生のため、将来の女学院生のため、2022年度からの学修環境整備の働きをいっそう充実させます。現代はコストパフォーマンスとタイムパフォーマンスが重視され、経済的・即効的な結果を求める時代と言われる。周囲への配慮が弱められ、また思索の深化・拡幅が限定される傾向も感じられます。それらを受け止めつつも距離を置き、先達の姿勢を思い起こし、世界に向けてひと味違った見方を提示する、神戸女学院の新たな特徴創出に努めてまいります。引き続き、本学院に祈りとお支えをくださいますようお願い申し上げます。

学校法人 KOBE COLLEGE
神戸女学院 理事長・院長 飯 謙

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年(明治8年)、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広い視野と

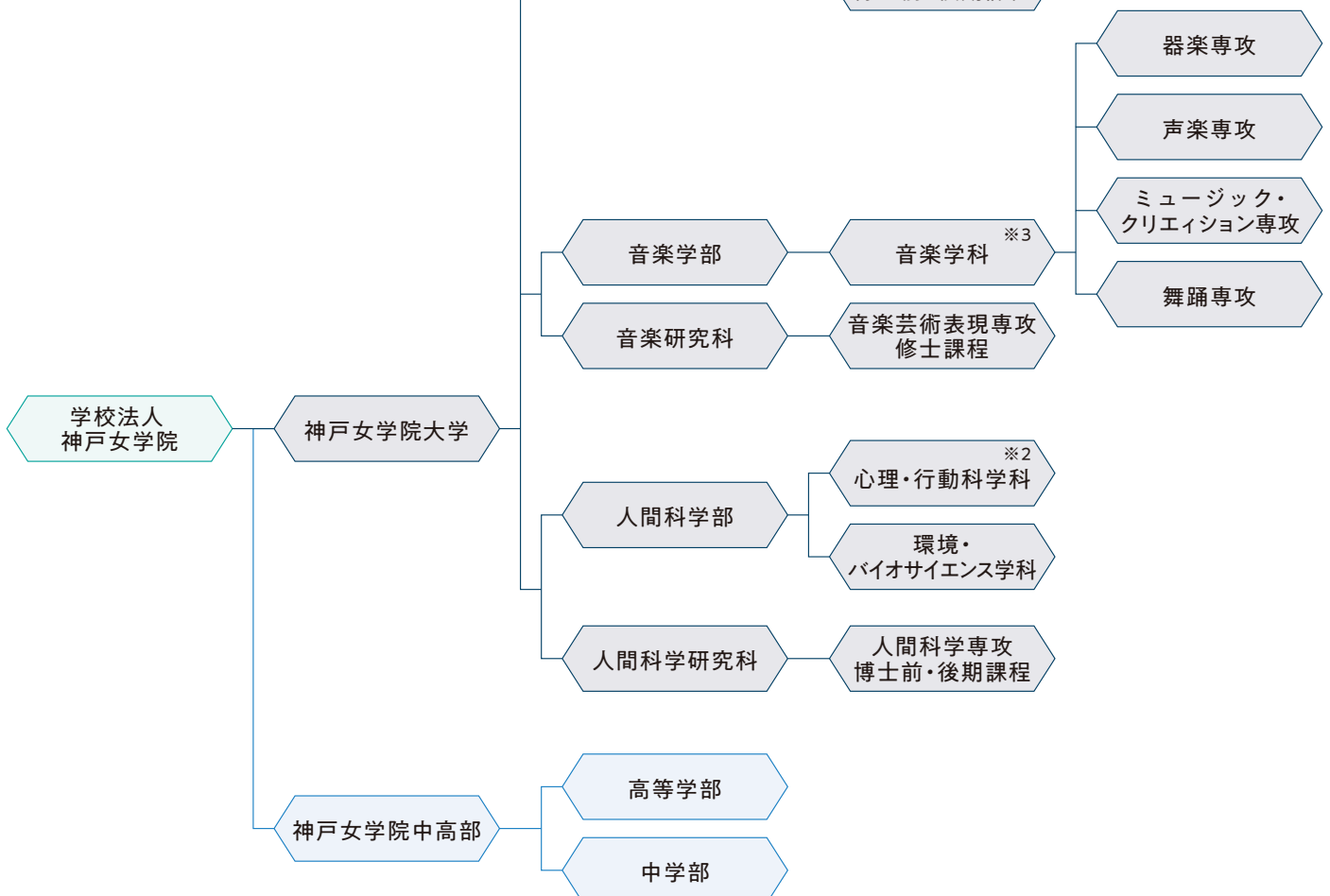
適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等

※1…国際学部を2024年に開設(申請中)

※2…心理学部を2024年に開設(申請中)

※3…音楽学部音楽学科を、音楽表現専攻と音楽キャリアデザイン専攻に改組(共に2024年)



学校法人 神戸女学院の沿革

- 1873年(明治6年) ▶ 米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日。10月、神戸花隈村に私塾を開く。
- 1875年(明治8年) ▶ 創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。
- 1879年(明治12年) ▶ 校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定め、中等教育のカリキュラムを整備。
- 1885年(明治18年) ▶ 高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
- 1891年(明治24年) ▶ 本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
- 1894年(明治27年) ▶ 「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。
- 1906年(明治39年) ▶ 教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
- 1909年(明治42年) ▶ 専門学校令により「専門学校(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。
- 1919年(大正8年) ▶ 日本女子大、東京女子大に続き、専門部を「大学部」と称することを認められる。予科1年・本科3年を置く。
- 1933年(昭和8年) ▶ 西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
- 1947年(昭和22年) ▶ 学制改革により新制中学部設置認可。
- 1948年(昭和23年) ▶ 新制高等学部設置認可。4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。
- 1949年(昭和24年) ▶ 新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
- 1965年(昭和40年) ▶ 大学院文学研究科(修士課程)英文学、社会学専攻を設置。
- 1967年(昭和42年) ▶ 家政学科が独立して家政学部となる。
- 1975年(昭和50年) ▶ 創立100周年を迎える。
- 1976年(昭和51年) ▶ 文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
- 1980年(昭和55年) ▶ 大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文化学専攻を設置。
- 1989年(平成元年) ▶ 大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
- 1990年(平成2年) ▶ 音楽専攻科を設置。
- 1993年(平成5年) ▶ 家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。
- 1997年(平成9年) ▶ 大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。
- 1999年(平成11年) ▶ 大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
- 2000年(平成12年) ▶ 創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文化学専攻を比較文化学専攻に改称。
- 2002年(平成14年) ▶ 大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
- 2004年(平成16年) ▶ 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。
- 2005年(平成17年) ▶ 人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。
- 2006年(平成18年) ▶ 音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
- 2007年(平成19年) ▶ 音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。
- 2013年(平成25年) ▶ 大学院文学研究科社会学専攻を廃止し、一部科目を比較文化学専攻に移行。
- 2014年(平成26年) ▶ 岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
- 2015年(平成27年) ▶ 創立140周年を迎える。大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。
- 2021年(令和3年) ▶ キャンパス再整備マスタープランを策定。
- 2022年(令和4年) ▶ 理学館西側地域再整備計画が始動。
- 2023年(令和5年) ▶ 国際学部、心理学部設置を届出(2024年4月1日開設予定)。

神戸女学院大学
学長

中野 敬一

新しい時代に即した改革を推進します 教育・研究・社会貢献の充実を図り

昨年度末、新型コロナウイルス感染症に関する「蔓延防止等重点措置」が全面解除されました。今年度（22年度）は感染者数の増加が継続する状況でしたが「行動制限」が解除されたことにより、主に対面による授業を実施すると共に、授業におけるオンラインの有効活用も続けました。

今年度は7年ごとに行われる公益財団法人大学基準協会による大学評価（「認証評価」）を受審しました。その結果、本学は同協会の大学基準に適合していると認定されました。今後は指摘された「長所」や「改善課題」と真摯に向き合い内部質保障を推進します。

また、教育の充実を図るため、昨年度から改組やカリキュラム改編の検討を重ねています。大学の個性や特徴が問われるなか、実施している教育内容の可視化に努めることの重要性が指摘されてきました。そのことを前提として、2024年度には文学部英文学科を国際学部（英語学科とグローバル・スタディーズ学科）に、人間科学部心理・行動科学科を心理学部（心理学科）に、それぞれ独立させて設置する構想を進めています。音楽学部も同じく24年度から音楽表現専攻と音楽キャリアデザイン専攻の2専攻になる予定です。既存の学科においても25年度改組・改編の構想を練っています。

教育環境の充実を目的としたキャンパス再整備についても学院との協議を重ねており、創立150周年という特別な時を迎えるにあたり、未来を見据えた計画を進めているところです。

社会貢献を目的とした諸連携については、これまでの西宮市との包括連携協定に加えて、今年度は宝塚市、芦屋市とも協定を締結しました。各市において具体的な協力を実施しています。高大連携も今年度新たに2校が加わりました。授業の実施や式典への参加等による協力を行っています。

学生募集に関する取組みとしての入試制度改革を行いました。入試広報もデジタル媒体による広告に力を入れています。23年度は新学部を中心に本学の教育の広報に努めます。



“生き方”を考え続ける日々を通して、
培われるものとは? 大学学長と中高部部長からのメッセージです。

神戸女学院
中学部・高等学部 部長

森谷 典史

2022年度も新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら授業や学校行事を進めました。2022年度は休校措置をとることなく1年間学習を続けることができました。休まずに学校を続けることを目標にしていたので、何よりだったと考えています。

思い起こせば3年前、コロナ感染症のため、休校となり、中学部の卒業式も実施することができませんでした。高等学部の入学式は保護者の方の参加なしに行われました。そして次の日から2か月間の休校となり、リーダーシップトレーニングキャンプ、体育祭が中止となり、クラブ活動、合宿の中止、夏の行事の中止と、中学生になったら、高校生になったらしようと思っていたことができなくなりました。そして、行事以外にも、高校生は中学部の時には当たり前のようにすることができていた日常の行動が制限され、思うようにできない、そういう思いに囚われたときもあったと思います。

しかし、2022年度は、体育祭、クラブ活動、文化祭と、それぞれがしたいと思っていた行事を実施することができました。その実施にあたり、できないこと、制限があることもありましたが、それを嘆くのではなく、自分たちが今できることを見つけよう、新しいものを作り出していこう、今までとは違った形で様々な行事を創り上げようと、生徒達は頑張ってくれました。できないことに囚われるのではなく、できることから作り上げればいいのだということを経験することができたと思っています。こうでなければという囚われた思いを捨てたとき、別の道が見えてくるのだと思います。まさに、コロナ禍の中、生徒の皆さんは、できないことに目を向けるのではなく、できることに目を向けていくことを実践し、その中で努力し互いに支えあいながら、上級生は自分たちの姿を後輩に示し、できないことはないのだということを見せてくれました。

私たち教職員は、生徒の皆さんから見せていただいた、希望の光を心にとめ、できることに目を向け取り組んでいくことが大切であることを改めて感じさせられました。

さまざまな行事は、コロナ前の状態に戻りつつあります。どんな時でも、嘆くのではなく、希望をもって楽しみながら歩み続けたいと考えています。

コロナ禍を超えて



大学

多方面にわたる様々な活動

授業関連

新型コロナウイルス感染症の状況の先が見通せない中、4月より対面を中心とした形態(レベル1)で前期の授業を開始し、1年間を通して同じレベルで授業を行いました。

また2021年度に引き続き、①学生がワクチン接種により授業を欠席した場合における措置、②教職員に対して遠隔授業サポート室でICT面でのサポート、③新型コロナ感染症に伴うリスクを理由とした遠隔対応を実施しました。

学習環境整備運用

- 情報セキュリティ強化のため、学外からのアクセスに対し全学的な多要素認証のサービスの本格運用を開始しました。
- e-learningシステム(Moodle)や動画配信システム(Mediasite)の高機能化により利便性の高いITシステムの更新したサービスの本格運用を開始しました。

授業以外

①学生サポート

- 感染防止対策のため、学生の入構を正門と西門に限定し、学生は専用端末に学生証をかざし検温を行った上での入構を継続実施しました。
- 障がい学生支援として、学内における学生の導線に白線を引き、エレベータースイッチの表示替えや照明を明るくするなどの対応を行いました。また、外部からの助成金を獲得し、機器の充実をはかりました。次年度より「障がい学生支援室」は、「バリアフリー推進室」と名称変更します。
- 学生からの投書と学生自治会からの要望に応えるため、岡田山口ツジにWifiルーターを設置し、クラブ活動を行う学生が利用できるにしました。また、活動の環境改善のため、同口ツジ3階の畳の入れ替えを行いました。
- カウンセリングルームでは大学の活動基準に応じたカウンセリングルームの運営方針<レベル1>にあわせて相談・テスト・グループプログラムの運営を行いました。
- 相談面接については原則対面で応じ学生の希望と適用に応じて電話やZoomでの相談も受けることとしました。テスト・アセスメントについては対面で実施しました。グループプログラムについては対面で行いコロナ前に近い回数まで増やしました。また特別講義を3年ぶりに参集で開催しました。

②キャリア・サポート

- キャリアセンターでは、個別面談やエントリーシート・履歴書添削面談等を状況に応じて「対面」及び「遠隔」(WEBシステム)で実施しました。
- 例年学内で開催している企業研究セミナーをオンラインで実施しました。
- グループディスカッションや模擬面接を対面で実施しました。

③国際交流

▶留学

- コロナ禍のため2年間で中止を余儀なくされていた留学・語学研修を再開しました。(詳細は28ページ参照)
- 留学生支援サービスOSSMAを活用し、留学中の危機管理対応を強化しました。
- 8月に、協定校であるベトナム日越大学とオンライン国際共修プログラム(ID100(1)「神戸女学院を創る(国際理解)」)を実施し、本学8名、日越大学6名が参加しました。
- 留学に必要な語学スコア対策として、IELTS(英語)、HSK(中国語)、ハングル検定(韓国語)の補習講座を開講しました。受講者数はIELTS13名、HSK3名、ハングル検定3名でした。

▶ 国際交流

- 8月22日～9月2日に昨年度に続き、米国のペンシルベニア州立大学とオンライン夏季集中講座を実施し、英文学科1年生と3年生の12名が参加しました。
- 2023年1月6日、13日に米国のLesley Universityとのオンライン交流会を昨年度に続いて実施し、英文学科の学生11名が参加しました。
- 英文学科教員の指導の下、英文学科の学生が、2022年3月開催の第18回大阪アジア映画祭に出品されたバングラディッシュ映画『HAWA』（風）の日本語字幕制作を行いました。また、英文学科教員と映画監督とのシンポジウムも開催されました。また過去に参加した字幕制作プロジェクトにより第15回大阪アジア映画祭で上映された『メイド・イン・バングラデッシュ』（ルバイヤット・ホセイン監督、2019年）が4月16日から岩波ホールを皮切りに、全国でロードショー上映されました。上映に際しては、本学教員によるトークイベントも行われました。
- 10月31日～11月5日に音楽学部にて「フレンドシップウィーク」が開催され、ザルツブルク・モーツァルテウム大学のR.プラッゲ教授を特別招聘教授として、同大学生他2名と共に招き、1週間に渡りマスタークラス、ワークショップ、中高生のための特別公開レッスン、フレンドシップコンサート、学生交流コンサートのプログラムを実施しました。

④ 図書館関連

- 遠隔での授業受講申請をしている学生を対象に、図書館資料郵送貸出・文献複写郵送サービスを実施しました。
- 4月25日～5月20日に、清水計枝氏制作・寄贈のシェイクスピア作品植物画72点の展示および参加型イベントを、また11月30日には立石浩一教授を講師に迎え、折り紙イベントを実施しました。
- 10月12日～12月20日に展示「松岡享子展—神戸女学院で過ごした日々を中心に」を開催し、学内外合わせて2,721名の来場がありました。
- 2022年度より「電子図書館LibrariE」と、雑誌読み放題のサブスクリプション「dマガジン for biz」を導入しました。
- 全学部生・院生を対象に、図書館の利用状況調査と図書館への要望調査のため、「2022年度図書館利用に関する学生アンケート」を実施しました。
- 2023年2月にジュリア・ダッドレー記念(JD)館書庫において、JD館資料、新館一部資料、音楽学部図書室一部資料に防カビ処理を施しました。

⑤ 大学行事

▶ 入学式・卒業式

4月4日に入学式を、2023年3月17日に卒業式を行いました。感染防止対策として、式を3回に分け時間を短縮した形で行いました。また、保護者や関係者の参加はご遠慮いただく代わりに、ライブ配信、オンデマンド配信を行いました。

▶ フレッシュマンキャンプ

新入生の本学への早期適応を果たすことを目的としたフレッシュマンキャンプを、4月に各学科にて行いました。次年度からは、新たに、「New Student Day」として実施します。

▶ 大学祭

3年ぶりに大学祭(岡田山祭)を、10月21日及び22日に 対面形式にて開催し2日間での来場者数は1,668名となりました。コロナ禍を経て、キャッシュレス決済を新たに導入しました。

▶ 保護者会

3年ぶりに学内外にて対面による保護者会を開催しました。7月9日には広島で実施し、28名の方々が参加しました。また、11月23日には本学にて保護者のための就職セミナーを含め行い、106名の方々の参加がありました。

▶ 大学クリスマス礼拝

12月23日、同時配信を行いながら感染拡大防止の対策をしつつ礼拝をまもりました。

▶ 音楽学部の主な演奏会

感染防止対策を十分行ったうえで以下の演奏会を開催しました。

- 4月20日 ……………「新人演奏会」 住友生命いずみホール
- 4月28日 ……………「音楽研究科修士課程修了披露演奏会」 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
- 6月28日 ……………「サマーコンサート」 宝塚ベガホール
- 9月24日 ……………ウインドオーケストラ 神戸女学院エミリー・ホワイト・スミス記念講堂
- 10月6日 ……………「オータムコンサート」 宝塚ベガホール
- 11月10日 ……………「音の響宴」 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
- 11月29日 ……………「定期演奏会」 兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール
- 12月15～17日 ……「舞踊専攻第14回卒業公演」 神戸女学院大学エミリー・ブラウン記念館スタジオA
<2023年>
- 2月20～22日 ……「卒業演奏会」 神戸女学院エミリー・ホワイト・スミス記念講堂
- 3月9～10日 ……「舞踊専攻第17回公演」 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

▶ 「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

本学の学生より3名の応募があり、優秀賞1名、佳作1名を選出しました。

広報関係

各学科ホームページサイト

①新学部開設にかかる広報

9月に2024年新学部開設の公表にあわせて、学長メッセージや動画コンテンツを盛り込んだ新学部開設特設サイトをオープンしました。新学部開設までの間、継続して情報発信を続けていく予定です。

②広告等の実施

入試への出願促進およびオープンキャンパスへの集客を目的に、阪急電鉄および神戸市営地下鉄の車内ドア横に広告を掲出しました。また、WEB広告(リスティング型)および動画広告を実施しました。

③その他

5月に音楽学科のホームページをリニューアルしました。また、11月には2024年度入学生から始まる学科の改編を告知するページを追加しました。

社会連携

高大連携

- 教育に係る交流を通じて両校の教育を相互に活性化させるために、2022年度は下記の高校と高大連携協定を締結しました。

兵庫県立宝塚西高等学校 兵庫県立須磨友が丘高等学校 神田女学園高等学校

- 9月から11月にかけて、高大連携協定校である仁川学院高等学校との高大接続講座を開講し英文学科教員4名が「アイデンティティー」を共通テーマに、それぞれの専門分野、異なる角度から講義を行いました。
- 第13回「絵本翻訳コンクール」を実施し、871件の作品応募があり、優秀賞：2組(2名)、優良賞：3組(5名)、奨励賞：3組(3名)に各賞が授与されました。
- 11月22日に英文学科の教員が、阪神地区の中学校の英語教員及び高校の英語教員対象研修会において、ICTの英語教育への活用などに関する講演を行いました。
- 高校生×神戸女学院大生で未来を見据える「SDGs 探究×研究サイエンスフォーラム」として人間科学部環境・バイオサイエンス学科の学生と、高校生によるポスター発表会を開催しました。発表には本学教員による審査を実施し、特に優れた発表をした高校生に優秀賞を授与するとともに本学大学生の研究発表も行い、交流を深めました。

第1回 8月7日 参加者：3校9名(新型コロナウイルスの影響のため、規模を縮小して開催)

第2回 2023年3月21日 参加者：7校27名

- サイエンス体験開催

第1回 8月23日 小学5、6年生対象 参加者：合計13組

第2回 2023年3月19日 高校生・予備校生女子対象 参加者：9組

地域連携

- 12月9日に交換留学生9名が、西宮市立山口小学校を訪問し、児童との交流活動を行いました。
- 英語科教職課程を履修する英文学科4年生が今年度も、西宮市内の小学校(山口小学校・西宮浜義務教育学校)にて外国語教育のボランティア活動を行いました。
- 英文学科の教員が、11月7日に西日本私立小学校連合会に属する小学校の児童を対象とした英語の暗唱コンテスト「第18回小学生レシテーションコンテスト」、及び12月17日に英語を母語としない大学生が英語を使い、2人1組で日本文化を紹介するプレゼンテーションコンテスト「第16回森田杯・英文毎日杯日本文化英語プレゼンコンテスト」の審査員を務めました。
- 本学との間で包括連携協定を締結している宝塚市との間で、市の公用文書の「やさしい日本語」への変換を行いました。これは、総合文化学科教員が日本語教員養成課程を履修する学生、ならびにゼミ学生を指導して、宝塚市ホームページに記載する文章や市民向けパンフレット等について、外国人市民の方に読みやすく理解しやすくするために、「やさしい日本語」に変換するプロジェクトです。
- 4月20日に宝塚市と包括連携協定を締結しました。宝塚市及び神戸女学院大学が、相互の連携と協働により、SDGsの取組等地域の諸課題に迅速かつ適切に対応し、もって地域の活性化及び市民サービスの向上を図ることを目的に締結されました。
- 12月16日に「芦屋市長 宝塚市長 対談講演会」を開催しました。女性リーダーのロールモデルである、いとう芦屋市長と山崎宝塚市長のお二人に本学学生が直接質問し、それに答えていただきながら、今を生きる若者に対してメッセージを伝えていただきました。
- 2023年1月23日に芦屋市と包括連携協定を締結しました。芦屋市及び神戸女学院大学が、相互連携と協働による地方創生に資する活動を推進し、市民参画協働による豊かな地域社会の活性化と住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう、締結されました。
- 音楽学部による音楽によるアウトリーチとして演奏派遣を10回(うち1回は卒業生による)、子どものためのコンサート(学内)を3回開催しました。
- 一般の方を対象とした金曜日公開プログラムを事前申込制と座席指定を行いながら、前期に8回、後期に9回実施しました。
- スミリンケアライフ株式会社が運営するサービス付き高齢者向け住宅「エレガーノ西宮」にて、学生・教員・卒業生によるコンサートを9回開催しました。
- 一般の方を対象に講師と受講者対話型のリベラルアーツ・カフェを開催し、5、7、9、11、2月の全6回で、延べ158名の参加がありました。

中高部 年間行事の実施状況について

授業関係

年間通じて平常授業の実施

学校行事関係

- 4月
 - J自治会オリエンテーション・デイキャンプ
 - 中学部・高等学部入学式 ●始業式 ●健康診断 ●J新入生歓迎会
 - 授業参観日① ●J1保護者ガイダンス ●聖書を学ぶ会①
- 5月
 - 中間テスト ●体育祭予行 ●学校説明会(6年生対象) ●聖書を学ぶ会②
- 6月
 - 体育祭 ●文楽鑑賞会(J2) ●人権学習会① ●授業参観②
- 7月
 - 期末テスト ●J・S校内大会 ●生活指導課講演会 ●終業式
 - リーダーシップトレーニングキャンプ ●エンパワーメントプログラム
 - リベラルアーツプログラムオンライン(広島、長島)
- 8月
 - 始業式
- 9月
 - 文化祭 ●防災訓練 ●芸術鑑賞会 ●J生徒総会 ●授業参観③
- 10月
 - 遠足(S3) ●修学旅行(S2) ●一泊研修旅行(S1) ●小旅行(J3) ●遠足(J2) ●遠足(J1)
 - 中間テスト ●愛校バザー ●聖書を学ぶ会③
- 11月
 - JS合同生徒総会 ●キャンパス見学会 ●宗教強調週間 ●授業参観④ ●人権学習会②
- 12月
 - 期末テスト ●キャリアガイダンス① ●S聖なる集い ●Jもみの木の集い ●クリスマス礼拝 ●終業式
- 1月
 - 始業式 ●中学部入試
- 2月
 - 人権学習会③ ●聖書を学ぶ会④ ●S卒業式リハーサル
- 3月
 - S卒業式 ●期末テスト ●キャリアガイダンス② ●J送別会 ●J卒業式 ●終業式

実施できなかった行事

- 春の遠足 ●宿泊を伴うクラブ合宿 ●リベラルアーツプログラム(白浜訪問) ●夏山登山 ●冬山スキー

危機管理関係

危機管理委員会の開催

危機管理委員会を年間4回開催し、学院の活動基準の設定・見直しを随時行い、大学・中高部における対応の検討、教職員の感染防止対策、バザー等イベントを開催する際の取扱いなどを協議しました。

新型コロナウイルス感染関連以外

創立150周年関係

創立150周年記念プログラム「ユニバーサルマナー検定」の先行講座を実施

2023年度から、大学1年生と高等学部1年生全員を対象に実施する創立150周年記念プログラム「ユニバーサルマナー検定」の先行講座を、現大学生の希望者に対して2022年11月5日及び2023年2月27日、28日に実施し、検定3級は203人、検定2級は21人の学生が受講しました。

財務関係

①経費支出の削減

入学者の減少によるキャッシュフロー不足に対応するため、1億円を目標に経費削減を行いました。

②資産運用関係

資金運用管理規程、資金運用管理基準を見直し、上場投資信託を利用した長期分散運用に着手しました。

③キャンパス再整備マスタープラン関係

東京寄宿舎クローバーハウス売却により資金面の見通しが立ったことを踏まえ、マスタープランの一部にかかる基本計画に着手しました。

④旅費規程、就業規則の見直し

改正案の検討作業を進めました。

施設関係

①キャンパス再整備マスタープラン関係

デフォレスト館のフリースペース化と事務室の移転計画が先送りとなる中、改めて大学のニーズを確認しました。その結果を踏まえ、2024年度に心理・行動科学科が心理学部として独立する予定に沿って、老朽化した理学館別館の代わりとなる施設を新築し、併せて理学館の西側を歩車分離や美観回復のため整備する「理学館西側地域再整備計画」が始動することとなりました。

②学院施設の充実

- 音楽学部2号館の経年劣化した屋上の防水層を全面改修しました。
- 設置後25年経過した学生寮の昇降機を更新しました。
- 学生寮から排出されるゴミの処理を西宮市の無料回収に変更するため、ゴミ置き場を西宮市指定サイズに拡張しました。
- エミリー・ブラウン記念館の1階教室は学外者利用及び水気を使用するプログラムでの利用などによりタイルカーペットの汚れと劣化が目立っていたため、耐水性のあるOAフロア素材に更新しました。
- イライザ・タルカット記念館の2階廊下の壁面塗装が劣化していたため更新しました。
- 設置後40年以上経過したイライザ・タルカット記念館化学実験室・準備室の排気ファンを更新しました。
- アンジー・クルー記念館の2階パウダールームに生徒用トイレを新設しました。
- 火災予防の取組として、設置後20～30年が経過する自動火災報知設備を更新しました。
- 茶室「松風庵」の雨戸の修理や建具の開閉調整、竹すのこの取替など、各所不具合箇所の修理や更新を行いました。
- 高木化した樹木や危険な古木を剪定・伐採することで、学内及び近隣の安全確保及び景観向上に努めました。
- 万葉池上部の水路に流れた雨水が地中に流入することで周辺の土砂を削り土砂流出していたため、透水管及びU字側溝を整備しました。

③重要文化財保存活用関係

- 理学館は豪雨時に小屋裏内に漏水被害が生じ木部の腐朽が懸念されるため、瓦の下地状況を確認した上、文化庁に承認を得た修理工法にて南半分の修理を実施しました。また、屋上軒先防水も更新しました。なお、本修理は2023年度に北半分の修理を実施し、完了する予定です。
- 国際的なフロンガス規則に基づき2020年に全廃されたR22冷媒を使用している社交館のガスヒートポンプエアコンを更新しました。
- 正門及び門衛舎の保存修理工事に先駆け、正門周辺の地盤調査を実施しました。



高大連携に関する協定を締結しました

教育に係る交流を通じて両校の教育を相互に活性化させるために、今年度は次の3校と高大連携に関する協定を締結しました。

▶5月24日 ◀ 兵庫県立須磨友が丘高等学校

総合学科を有する兵庫県立須磨友が丘高等学校における幅広い学びは、神戸女学院大学のリベラルアーツ教育との共通点も多く、相乗効果を発揮することを期待しています。

▶6月2日 ◀ 兵庫県立宝塚西高等学校

兵庫県立宝塚西高等学校は目指す生徒像として「自らを律し、自分でものごとを考え、判断する力を養うこと」を掲げておられます。また、「国際教養コース(Liberal Arts and Communication Course)」を有

しており、これらは神戸女学院大学が行っているリベラルアーツ教育との共通点も多く、今回の協定締結において、より相乗効果を持つことができると期待しています。

▶6月4日 ◀ 神田女学園高等学校(東京都千代田区)
神田女学園中学校高等学校は、130年を超える女子教育の長い歴史を有し、リベラルアーツ教育を通じ「深い知識と広い教養を身につけた品格ある個人」を育てることを目指しておられます。これは神戸女学院大学の教育の3つの柱「キリスト教主義」「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」との共通点も多く、今回の協定締結において、より相乗効果を持つことができると期待しています。



本学が今年度も上位にランクインしました

「大学通信」が発表した以下のランキングで今年度も上位にランクインしました。(2023年3月29日発表)

入学後、生徒を伸ばしてくれる大学2022

全国女子大学編で **1** 位 / 近畿編で **7** 位

小規模だが評価できる大学2022

近畿編で **1** 位 / 女子大学編で全国 **3** 位

2022年有名企業400社 実就職率ランキング

西日本の私立女子大学で3年連続 **1** 位

- 西日本女子大学: **1** 位(3年連続)
- 関西の私立大学: **6** 位
- 全国の大学: **75** 位



宝塚市と包括連携協定を締結しました

神戸女学院大学は宝塚市と包括連携協定を締結することとなり、4月20日、中野敬一学長と山崎晴恵宝塚市長が出席して、宝塚市役所にて協定締結式を実施しました。本協定は、神戸女学院大学と宝塚市が、相互の連携と協働により、SDGsの取組等地域の諸課題に迅速かつ適切に対応し、もって地域の活性化及び市民サービスの向上を図ることを目的に締結されるものです。



芦屋市と包括連携協定を締結しました

神戸女学院大学は芦屋市と包括連携協定を締結することとなり、2023年1月23日、中野敬一学長ととうまい芦屋市長、福岡憲助芦屋市教育長が出席して、芦屋市役所にて協定締結式を実施しました。本協定は、芦屋市及び神戸女学院大学が、市民参画協働による豊かな地域社会の活性化と住民が安心して暮らせる地域づくりに資するための協力に関し、必要な事項を定めることを目的とするものです。



「ユニバーサルマナープログラム」開始！ ユニバーサル検定講座を実施しました

神戸女学院は、2025年に創立150周年を迎えます。それを記念して、神戸女学院の永久標語「愛神愛隣」の精神を体現し、心のバリアフリーを実践できる人の育成に向けて、学生・生徒参加型企画「ユニバーサルマナープログラム」(以下、本プログラム)を実施します。全新入生を対象とする規模での実施は、西日本の教育機関では初めての取り組みとなります。

本プログラムでは、「ユニバーサルマナー」を身につけた学生・生徒を社会に送り出し、様々な場所で活動することを目指しています。なお「ユニバーサルマナー」とは、高齢者や障がい者、性的マイノリティ、外国人など、自分とは異なる多様なバックグラウンドを持つ人の視点に立った行動や配慮を行うために必要な心構えや姿勢のことです。この「ユニバーサルマ

ナー」を身につけるために開発されたのが「ユニバーサルマナー検定」であり、本プログラムはこの検定を学生・生徒に受けてもらうことが出発点となります。

今後の展開として、地域貢献の観点から、本学院がキャンパスを置く西宮市との連携に向けた協議を行っており、具体的には、同市が運営する各種施設やイベント等で「ユニバーサルマナー検定」に合格した学生・生徒が活動することを想定しています。



Topics 6

英文学科学生が制作した日本語字幕で映画上映されました

本学文学部英文学科は2019年度から「大阪アジア映画祭」に協賛し、出品されるバングラデシュ映画の日本語字幕を制作するプロジェクトを続けています。2022年には、この日本語字幕制作プロジェクト初年度に字幕を手掛けた『メイド・イン・バングラデシュ』（2019年 ルバイヤット・ホセイン監督）が全国劇場公開（2022年4月16日～）され、学生の手になる日本語字幕がそのまま採用されました。またこれは、バングラデシュ人監督作品としては日本初の全国公開ともなった記念すべき映画でもあります。

プロジェクト4年目を迎えた2022年度も、英文学科の南出和余准教授、Susan Jones准教授の指導の

もと、学生たちはこれまでで最も長い130分を超える大作、『風』“HAWA”（2022年 メジバウル・ラフマン・シュモン監督）の日本語字幕に挑戦し、第18回大阪アジア映画祭（2023年3月10日～19日）での上映時には観客から温かい拍手をいただきました。



Topics 7

本学学生のアイデアが「日中青年環境創生フォーラム」にて優秀提案として選出されました

12月16日に、本学文学部総合文化学科3年生6名が「JENESYS2022日中青年環境創生フォーラム～私たちの未来のために～」に日本側大学生代表として登壇しました。

本フォーラムは、日中の大学生が次なる日中友好の歩みを共に展望し相互理解を深めることを目的に、外務省が推進する「JENESYS2022」の一環としてオンライン開催されました。日中あわせておよそ120名

の学生が参加し、現代社会共通の環境課題である「カーボンニュートラル」をテーマに取り上げ、「カーボンニュートラル、何から始める？」の問いのもと、アイデアを考え、パワーポイント資料を作成し、事前に提案を行いました。

その結果、本学学生6名が提出したアイデアが優秀提案（日中各2）として選出され、フォーラム当日にその内容が発表されました！

音楽学部ウインドオーケストラのレコーディングを行いました

6月23日、神戸女学院大学音楽学部ウインドオーケストラの2枚目のCD制作のためのレコーディングを行いました。10時から20時の一日を掛け、音楽学部ウインドオーケストラの学生、演奏研究員、講師など総勢約60名が4曲を収録しました。

マロッセ「主の祈り」と樽屋雅徳「ラザロの復活」は、キリスト教に基づく作品です。「主の祈り」は、テノールの松本薫平教授が独唱を務め、八木澤教司専任講師による吹奏楽編曲で録音しました（「主の祈り」の編曲はJASRACに著作権の確認を経て行いました）。

八木澤専任講師の新作「オルチンの天使たち」は、授業が行われるオルチン館（神戸女学院の理事長で日本初期讃美歌の蒐集家でもあった、ジョージ・オルチン牧師の名に因む）からタイトルが付けられ、クラリネットの稲本渡専任講師が独奏を務めました。松本教授や稲本専任講師の音楽と真摯に向き合う姿勢と圧倒的な演奏に、バンドメンバーも大きな刺激を受けました。

また、清水大輔氏の「イモータル・アンセム」は、プロの吹奏楽団シエナ・ウインドオーケストラとエイベックスの共同委嘱で書かれた曲で、吹奏楽の演奏水準を示すグレードでは、最難のグレード5の作品です。特別講師として清水大輔さんご本人に録音をディレクションいただき、作品のイメージや、激励のコメントを頂戴しました。レコーディング中にも、多くのアドバイスをいただき、バンドがより一丸となり、良いものを作り上げるための一体感が生まれました。

2021年の1枚目のアルバム発売から再び、2枚目のアルバム制作に向けて始動した本学のウインドオーケストラ。9月と11月に残り2回のレコーディングを行い、2023年春にリリース予定です。



2022年度公認心理師試験 合格率が100%(3年連続)でした

2022年度公認心理師試験が7月17日に行われ、結果が10月に発表されました。本学の大学院人間科学研究科臨床心理学分野の修了生で、今年度受験した方々は、全員合格することができました。2020、2021年度に続き、3年連続で合格率が100%でした。

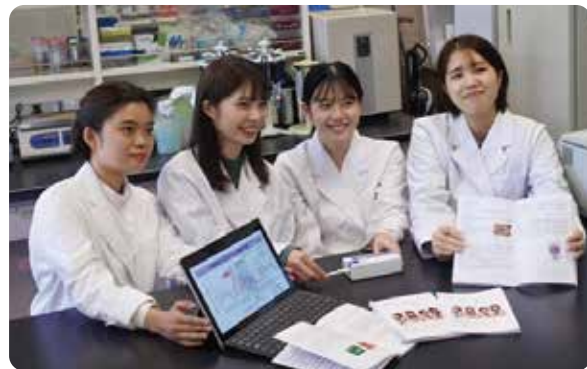
■参考■ 全国平均合格率48.3%





卒業研究:Gender&Health班が神戸新聞の取材を受けました

Gender&Health班が取り組んでいる、月経周期における唾液アミラーゼ値の変化に関する調査結果や、月経に関するアンケート調査の結果について、プレゼンテーションをおこないました。さらに、中高生の皆さんに月経への理解を深めてもらいたいという想いで教材「中高生に知ってもらいたい“月経”のこと」(冊子)を作成しました。これらについて10月18日、神戸新聞が取材に来てくださいました。



15期生門戸班が開発に関わった梅スイーツが販売されました

「地域創りリーダー養成プログラム」15期生門戸班が開発に関わった梅スイーツ「梅花の歌(うめのはなのうた)」が近隣の甘味処で2023年2月4日に販売が開始されました。

門戸厄神地域のご当地梅酒「こいうめ」を漬けたあとの梅の実の再利用を目的に、梅スイーツ開発の企画が始まりました。開発には株式会社サザエ食品をはじめ、地域の方々や企業の方々が携わっていらっしゃいます。

企画が元号の令和に変わる頃に始まったこと、梅を使ったスイーツということから、万葉集の第5巻「梅花の歌」から名前をとりました。



学生が考案したSDGsランチが食堂で提供され、 マスコミ取材を受けました

英文学科・奥村キャサリン准教授の3年生ゼミ生2名が、研究プロジェクトの一環として、食堂メニューに健康食を提案しました。奥村ゼミでは、国連で定められたSDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)を身近なローカルな問題に結び付けて行動を起こすことを目標として、ゼミ生がいろいろな活動に取り組んでいます。

専門家である人間科学部環境・バイオサイエンス学科の高岡教授の協力を得て学生2名が考えた身体によいメニューは、「美肌丼」と「サラダボウル」の2種類で、食堂メニューとして提供が決まりました。研究プロジェクトでSDGsの目標3「すべての人に健康と福

祉を」に取り組む中で、大学生のうちから健康を意識した食生活の重要性を感じたそうです。また、「バランスの整った健康的な食生活がメンタルヘルスも整える」と実体験からも学び、今回の健康食の提案に至ったそうです。

提供の様子について、7月21日に読売新聞およびサ
ンテレビが取材に来ていただきました。



音楽学部の学生たちと講師陣が一丸となって開発 『オルチンの天使たち』の楽譜が出版されました！

音楽学部では4年前から授業としてウインドオーケストラ(吹奏楽)が開設されました。作曲家として多くのレパートリーを生み出してきた八木澤教司専任講師が2020年度から着任して以来、国内外の出版社と提携して、フィリップ・スパーク、トーマス・ドスといったヨーロッパを代表する作曲家の新作を日本初演、邦人作曲家の新作を本学から積極的に発信しています。

2022年度はクラリネット奏者として多方面で活躍している稲本渡専任講師と純真に音楽と向き合う学生たちのために、八木澤専任講師が『オルチンの天使たち』を作曲。6月28日に宝塚ベガホールで開催された本学ウインドオーケストラのサマーコンサートにて同曲を世界初演し、今冬にはロケットミュージック株式会社から楽譜が出版されました。本学音楽学部の学生たちと講師陣が一丸となって研究し、開発した作

品が成果品として多くの皆様へお届けできましたことをご報告します。

また、出版楽譜の表紙は『オルチンの天使たち』の演奏に参加した、クラリネット専攻4年生によるものです。作品のイメージを基にしたこのデザインが、光栄なことにロケットミュージックの助安博之代表取締役の目に留まり採用されることになりました。本学では音楽だけに留まらず、視野を広げ多くのジャンルを学ぶことのできるリベラルアーツ教育を理念としています。音楽学部の学生は音楽はもちろん、多彩な才能が開花しています。





本学で学んだPCIT International認定セラピストが誕生しました

人間科学研究科では、臨床心理学分野の授業に、いち早くPCIT(親子相互交流療法)の実践者養成プログラムを導入し、卒業後も研修生やPCIT研究生として在籍することでPCITの国際資格を取得できるシステムを2019年より運営しています。公認心理師や臨床心理士受験資格に加えて、このような国際資格取得を目指す教育システムは、日本では本学が初めて実施しました。

6月22日、PCIT International認定トレーナーの國吉知子教授の指導のもとで研鑽をつみ、所定のPCIT事例担当などすべての資格要件を修了された、

2020年度大学院博士前期課程修了生がPCIT International認定セラピストの国際資格を獲得されました。認定セラピストは、PCIT Internationalに登録され、同ホームページ上にてPCITをマスターした実践者として公的に紹介されます。

なお、現在3名の在学生在がPCIT認定セラピストを目指して、心理相談室にてPCIT実践に携わっています。



「CARE™専門家ワークショップ」を在学生対象に実施しました

CARE(子どもと親の絆を深めるプログラム)とは、PCIT(親子相互交流療法)などをベースに、米国シンシナティ子ども病院で開発された、子どもと受容的・共感的な良い関係を持つコミュニケーションスキルを習得するプログラムです。日本では2008年に導入され、児童相談所をはじめ、さまざまな対人援助領域で急速に展開されています。

7月20日に國吉知子教授(CARE™認定ファシリテーター)とアシスタントの本学大学院修了生による正規のCARE™専門家ワークショップが開催され、臨床心理学分野の大学院生に國吉ゼミの4年生、総計17名が受講しました。参加学生の満足度も非常に高く、和気あいあいとした互恵的な雰囲気の中で全員が

ロールプレイにも積極的に取り組み、無事、修了証を手にすることができました。

本学はCAREワークショップを学生対象に実施している、日本でも希少な教育機関です。ミッションステートメントに共感的人格の涵養を掲げる本学の教育理念にもCAREは合致しています。





芸術鑑賞会

2022年度の芸術鑑賞会は、9月26日(月)13時30分より、西宮アミティ・ベイコムホールにて六代豊竹呂太夫氏企画・出演による人形浄瑠璃「ゴスペル・イン文楽～イエスの生涯と十字架～」を鑑賞しました。

江戸時代に大阪で発展し、人々に親しまれてきた芸能である文楽。六代豊竹呂太夫氏は、英太夫の時代から、日本が世界に誇る財産である文楽に新たな生命を吹き込む試みに日々取り組んでこられました。今回の演目も、世界で最も知られている物語「イエス・キリストの生涯」を日本の伝統芸能“文楽”によって大胆にそして力強く表現した作品として、高く評価されています。

本校では総合学習の一環として、中学2年生が例年国立文楽劇場で文楽を鑑賞していますが、今回の演目

はまさにミッションスクールとして日々の礼拝や聖書の学びの中で語られるイエスの生涯を描いた作品であり、聖句や讃美歌とはまた異なった形で生徒たちの胸に迫力をもって響いたことと思います。特に太夫によるその全身から発せられるドラマチックな語りと太棹の空気を震わす力強い音色は、イエスの苦悩する内面の表現手法として実にふさわしいものだと実感しました。

また、人形の表情はシンプルでありながらとても雄弁です。人形遣いの意志を伝えて余りある豊かな人形たちの存在に、今私たちが失いつつある人と人との生身の関わりのあるべき原型を見ることができたと思います。





キャンパス見学会

2022年度の中高部キャンパス見学会は事前申し込みによる入場制限と学校内での滞在時間の限定をした上で、11月5日(土)と26日(土)の2日間にわけて実施しました。

この会では、まず来校者に講堂にお入りいただき、参加者全員で礼拝を守った後、中高部長からの教育方針説明、ビデオを用いた学校生活の様子を紹介、中高部チャプレン講話「神戸女学院の自由～根っこと翼を併せ持つ者の姿～」、在校生による英語スピーチ、コーラス部による歓迎合唱またはギター部による歓迎演奏を行いました。これらのプログラムの後、20名程度の小グループに分かれてキャンパスツアー(学内ツアー)を行いました。

今年度のキャンパスツアーでは、本学中学部3年生の生徒に、ツアーのガイド役をお願いし、ツアーで学

校内を回りながら、学校の魅力を伝えてもらうようにしました。ガイドを担当した生徒達は、来校者に少しでも学校のことを知っていただき、楽しんでいただきたいという思いをこめて取り組んでくれたようで、来校された小学生にとっては「憧れのかっこいいお姉さんの姿」を見てもらえる機会にもなったのではないかと感じています。

来校者数は11月6日は411組830名、11月26日は389組785名でした。特に11月26日は、来場申し込みをされたお嬢様の小学校が学級閉鎖になられたために来場がかなわなくなった、という残念なお知らせをお聞きすることもあり、新型コロナウイルス感染症の影響が根強く残っていることを感じさせられる面もありました。



中高部チャプレン講話「神戸女学院の自由～根っこと翼を併せ持つ者の姿～」の様子

文化祭を開催

9月10日、3年ぶりに一般公開で文化祭を開催しました。外部の方をお迎えするにあたり、まず構内が密にならないように入っただけとすることができる人数を概算しました。講堂の演目は座席を1つおきに使用、教室展示は各教室にグループで同時に入れる人数を3人、ブースの数は最大4つまで、クローバーホールや53室の入場者は最大人数を決めて立ち見なしとするなどして、人数を積算しました。この結果、1200人程度の方を受け入れることができるという結論になりました。来校者が構内に滞在される時間は、教室展示の見学時間を最大15分として半日も過ごせば十分満足していただけるだろうと考え、午前・午後の2部入れ替え制とすることにしました。

次に、感染症対策のためにどなたがどの場所にどの時間帯に滞在したかをトレースできるようにしておかなければなりません。そのため講堂座席を指定席にし、どの演目を見られるかを把握することにしました。このような事情から今年度はオンラインの事前申

し込み制にし、「午前の部・午後の部」の区分で来校される方の人数・見学されるステージを把握しました。その際、保護者様は2名までは保護者枠で抽選なしで受け付け、入りきらなかった方は一般枠に申し込んでいただくことにしました。また、ステージに出演している生徒の保護者様はそのステージを見ていただけるよう、優先的にステージを割り当てるようにしました。教室展示でも、各教室の入り口にお客様番号と入退場時刻を記入するシートを設置してトレースできるようにしました。

文企生徒たちが中心となってこのような方策を作ってくれたことで、自信を持って来校者をお迎えすることができました。3年振りにお迎えしたお客様方は、とても楽しんでいらっしゃる様子でした。またお迎えしている生徒たちもとても生き生きとしていて、自分たちの役割を楽しんでいました。生徒たちが元気になるこのような機会を一つ取り戻すことができたことには、大きな意義があったと思います。





バリアフリー対応の 明るく歩きやすい環境づくり

視覚障がい者対応として、側溝への転落防止のため正門及び谷門からの道路の側溝側に白線を引きました。

また、図書館から理学館及び総務館から文学館の渡廊下の照明の増設及び白熱球から高ワットLEDへ取替えることにより、照度を上げました。



▲ 歩行者にやさしい環境整備



▲ Before/整備前



▲ 照明の増設、高ワットLEDへ取替え



講堂南北スチール窓と カーテンをリニューアル

講堂南北スチール窓上部の天井塗装及び周辺の擬石塗装が劣化し、全体的に色合いもくすんで輪郭がぼけていたため、塗装替えを実施しました。また、脱色、破れなど劣化が激しかったカーテンも全面更新しました。



▲ Before/整備前



▲ 塗装替え、カーテン全面更新



4方向天井カセット形の ファンコイルユニットを設置

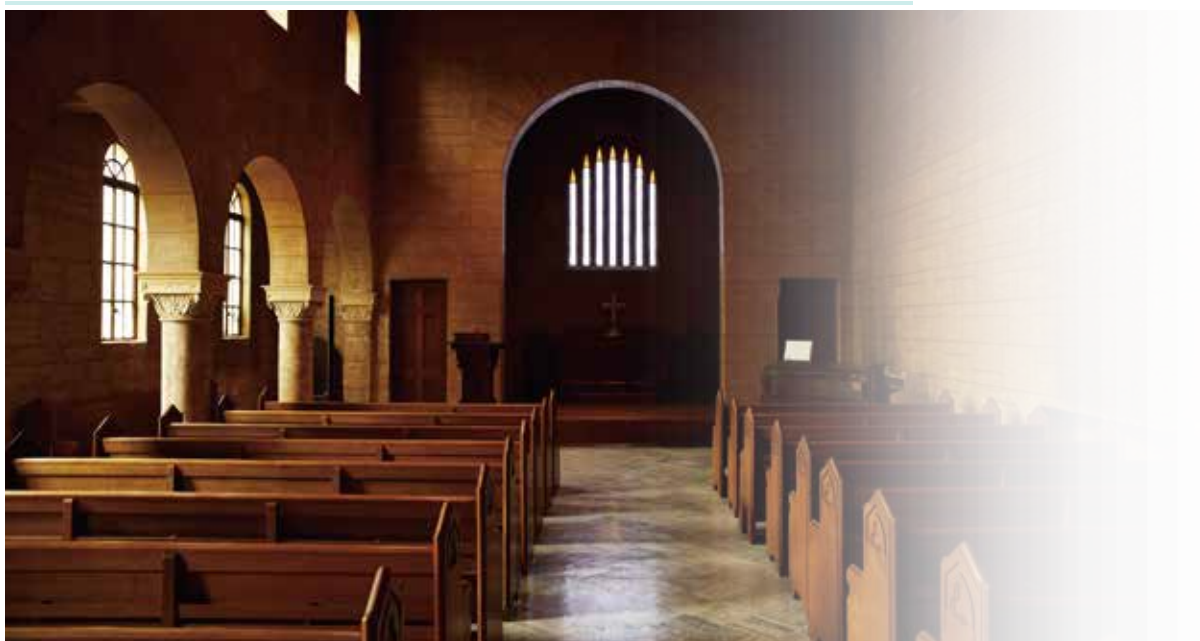
葆光館の教室の座席位置による温度むらを解消するため、4方向天井カセット形のファンコイルユニットに更新し、教室環境の向上に努めました。



▲ Before/整備前



▲ 座席位置による温度むらを解消





入学定員・収容定員・在籍者数 (2022年5月1日現在)

神戸女学院大学

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部	英文学科	150	92	600	513
	総合文化学科	200	163	800	805
計		350	255	1,400	1,318
音楽学部	音楽学科	* 40	39	* 180	170
		(編入) 1	1		
計		41	40	180	170
人間科学部	心理・行動科学科	* 96	111	* 366	428
	環境・バイオサイエンス学科	80	48	320	314
計		176	159	686	742
大学 計		567	454	2,266	2,230

2019年度より収容定員を2,256名から2,266名に変更。※2022年度より入学定員及び収容定員を変更。

神戸女学院大学大学院

			入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科	英文学専攻	博士前期課程	13	4	26	4
		博士後期課程	2	0	6	0
	比較文化学専攻	博士前期課程	5	4	10	6
		博士後期課程	2	1	6	3
計			22	9	48	13
人間科学研究科	人間科学専攻	博士前期課程	10	12	20	22
		博士後期課程	2	0	6	2
計			12	12	26	24
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	修士課程	7	6	14	11
大学院 計			41	27	88	48

神戸女学院中高部

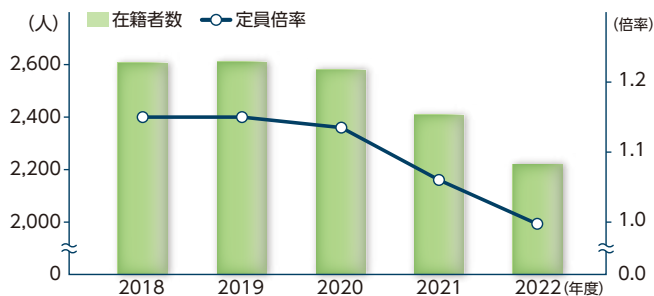
		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
中学部		135	143	405	426
高等学部	全日課程 普通科	—	—	405	427
中高部 計		135	143	810	853



在籍者数推移

神戸女学院大学

学部名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
文学部	1,658	1,637	1,614	1,470	1,318
音楽学部	170	170	159	155	170
人間科学部	779	803	812	779	742
計(A)	2,607	2,610	2,585	2,404	2,230
定員(B)	2,256	2,266	2,266	2,266	2,266
(A)/(B)	1.15	1.15	1.14	1.06	0.98



神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
文学研究科	23	14	14	6	10
人間科学研究科	17	20	23	22	22
音楽研究科	11	12	18	16	11
計	51	46	55	44	43

博士後期課程

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
文学研究科	1	3	2	2	3
人間科学研究科	2	4	3	2	2
計	3	7	5	4	5

神戸女学院中高部

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中学部	435	437	437	429	424
高等学部	413	414	415	423	423
計	848	851	851	852	847



志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学 今年度の傾向

2023年度入試においては、ほとんどの入試制度で昨年度に引き続き志願者が減少しました。

最終的な入学者数も前年度を割る結果となりました。

神戸女学院大学

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
志願者数	4,284	3,853	2,362	1,892	1,407
合格者数	1,562	1,632	1,270	1,466	1,112
入学者数	647	623	479	454	432

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
志願者数	42	46	30	37	44
合格者数	25	28	16	26	29
入学者数	24	26	16	26	27

博士後期課程

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
志願者数	4	1	2	1	0
合格者数	4	0	1	1	0
入学者数	4	0	1	1	0

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般選抜	前期A日程	3科目型	149	141	132	1.1
		2科目型	166	159	142	1.1
		音楽学科	19	19	18	1.1
	前期B日程		123	113	102	1.1
	前期C日程		90	36	29	1.2
	前期D日程	共通テスト1科目型	21	8	3	2.7
		共通テスト2科目型	20	8	4	2.0
大学入学共通テストを利用する入学試験	前期日程	2科目型	48	48	38	1.3
		3科目型	50	50	35	1.4
		4科目型	23	23	17	1.4
	後期日程	2科目型	14	14	6	2.3
		3科目型	10	10	7	1.4
4科目型	5	5	3	1.7		
一般選抜 後期日程			67	53	44	1.2
学校推薦型選抜(公募制)			323	311	274	1.1
総合型選抜			89	87	73	1.2
帰国子女入学試験			0	—	—	—
社会人入学試験			0	—	—	—
外国人留学生入学試験			1	1	1	1.0
編入学試験			1	1	1	1.0
国際バカロレア入学試験			2	2	2	1.0

神戸女学院中学部 今年度の傾向

新型コロナ禍も落ち着きを取り戻した環境での入試となり、引き続き万全の感染症予防対策の下、無事に終了する事ができました。昨年度はその前年度より志願者数減に転じ若干心配もありましたが、今年度はまた回復に転じた結果となりました。この1年、外部説明会等を通じて本学の教育活動への反応、要望等をつぶさに肌で感じ取り、各広報活動にも的確に努力を重ねました。入試自体の傾向としましては、優秀なバランスの良い生徒の確保に繋がるように各教科の知恵も絞られ、遠隔地からも従来どおりの安定した受験生もあり、結果的に理想的な入学者数の確保を実現できました。

神戸女学院中高部

中学部

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
志願者数	262	240	272	229	254
合格者数	155	153	154	154	159
入学者数	145	143	145	143	144
転入学者数	—	—	—	—	—
編入学者数	—	—	—	—	—

高等学部

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
編入学者数	—	—	—	—	—

* 高等学部 全日程課程 普通科 募集なし



留学状況

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院

2022年度はコロナ禍による渡航制限が緩和されて、ようやく派遣留学を含む多くの国際交流関連プログラムを再開することができ、2021年度からの延期者を含む学生たちが3年ぶりに渡航を伴う留学・研修へと旅立ちました。実施に際しては留学支援サービスOSSMAへ加入すること等によって、コロナを含む緊急時危機管理対応を強化しました。

2023年度は国際交流プログラムをさらにコロナ前の状況に近づけられるようにしたいと考えていますが、一方で円安・渡航費高騰の影響等の経済的な理由で留学が難しくなっている側面もあり対策が急務となっています。

▶ 本学から海外へ

【派遣留学】

国名	学校名	人数
アメリカ	ロックフォード大学	2
	ポーリンググリーン州立大学	1
イギリス	イーストアングリア大学	1
フィリピン	アサンプション大学	2
韓国	淑明女子大学	3
	徳成女子大学	1
台湾	文藻外語大学	2
計		12

【認定留学】3名

オーストリア・モーツァルテウム音楽大学3名(渡航)

【中期英語留学／中期海外研修】

国名	学校名	人数
アメリカ	チャタム大学	6
	カリフォルニア大学アーバイン校	2
カナダ	ヨーク大学	3
計		11

▶ 海外から本学へ

【留学生受入れ(※すべて渡航型)】

前期6名(イギリス・イーストアングリア大学1名、韓国・淑明女子大学1名、韓国・徳成女子大学1名、中国・広東外語外貿大学3名)

後期7名(アメリカ・ポーリンググリーン州立大学1名、アメリカ・サムヒューストン大学1名、韓国・淑明女子大学1名、

韓国・徳成女子大学1名、中国・広東外語外貿大学1名、台湾・文藻外語大学2名)

【夏期・春期語学研修(渡航型)】

夏期(※別途、カナダ・ヨーク大学オンライン型1名)

国名	学校名	人数
アメリカ	昭和ポストンインスティテュート	8
カナダ	ヨーク大学	14
計		22

春期

国名	学校名	人数
アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校	11
イギリス	ヨーク大学	14
韓国	梨花女子大学	9
計		34

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
留学	Ecole Secondaire Libre Saint-Hubert	ベルギー	1
	Espoon yhteislyseo	フィンランド	1
計			2

海外から本学へ

国名	人数
チェコ	1
イタリア	1
計	2



卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・ バイオサイエンス 学科	
2018年度	171	214	48	87	88	608
2019年度	168	223	44	97	79	611
2020年度	162	225	45	108	89	629
2021年度	157	224	23	107	84	595
2022年度	150	219	45	101	103	618

*前期末(当該年度9月)卒業・早期卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科		音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現 専攻	人間科学専攻	
2018年度	8	2	6	9	25
2019年度	5	1	4	7	17
2020年度	4	3	7	11	25
2021年度	2	2	11	11	26
2022年度	0	1	5	9	15

*前期末(当該年度9月)卒業を含む

博士後期課程

博士後期課程単位取得退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化学 専攻	人間科学 専攻	
2018年度	0	0	0	0
2019年度	1	0	0	1
2020年度	0	0	0	0
2021年度	0	0	0	0
2022年度	0	0	0	0

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化学 専攻	人間科学 専攻	
2018年度	0	0	0	0
2019年度	0	0	0	0
2020年度	0	0	0	0
2021年度	0	0	0	0
2022年度	0	0	2	2
博士後期課程 設置当初からの 累計	9	2	15	26

神戸女学院中高部卒業生数

中学部		高等学部	
2018年度	142	2018年度	134
2019年度	143	2019年度	139
2020年度	149	2020年度	136
2021年度	145	2021年度	135
2022年度	137	2022年度	137





就職・進学状況

神戸女学院大学

2022年度の就職活動はコロナ禍に減少したインターンシップの参加率や実施率が増加し、また、インターンシップに参加した学生が早期選考や早期に企業説明会を受ける機会があるなど、マッチングプロセスの早期化が目立ちました。学生生活の大半をコロナ禍で過ごすことになり、思うようにキャンパスライフを送れなかった学生もいる中で、当年度の就職率(就職希望者に対する就職者の比率)は99.0%と前年度を0.2ポイント上回りました。産業別では「製造業」、「教育、学習支援業」及び「運輸業、郵便業」の比率が増加しました。大学院進学者数は38名となり昨年よりわずかに増加しました。

主な就職先(2023年3月卒業生)

建設業

一条工務店
大和ハウス工業
独立行政法人水資源機構

製造業

アルインコ
アルピオン
伊藤園
オリエンタルモーター
キーエンス
極東開発工業
小松製作所(コマツ)
サラヤ
ジャヴァコーポレーション
昭和産業
住友金属鉱山
住友電気工業
第一三共ヘルスケア
大真空
タカラバイオ
東ソー
東リ
日本精機
日本電気(NEC)
日本圧着端子製造
日本たばこ産業(JT)
ハイレックスコーポレーション
ファミリア
ベベ
ミキモト
三菱ふそうトラック・バス
レリアン
ロックペイント

ガス業・水道業

静岡ガス
大阪広域水道企業団

情報通信業

NSD
T&D情報システム
日本アイ・ピー・エムデジタルサービス
富士ソフト

富士電機ITソリューション
北海道テレビ放送
ロジスティードソリューションズ

運輸業、郵便業

ANA成田エアポートサービス
ANA関西空港
ANA大阪空港
ANA沖縄空港
JALスカイ
JALスカイ大阪
Kスカイ
羽田空港サービス
フジドリームエアラインズ
大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)
阪急電鉄
西日本旅客鉄道(JR西日本)
川西倉庫
キリングループロジスティクス
佐川グローバルロジスティクス
神鋼物流
全農物流
日本通運
三井倉庫サプライチェーンソリューション
三井倉庫ホールディングス
郵船ロジスティクス
日本郵便

卸売業、小売業

伊藤忠食品
岩谷産業
大月真珠
コニカミノルタジャパン
住友商事マシネックス
トラスコ中山
リョーサン
そごう・西武
阪急阪神百貨店
ケリングジャパン・ヴィ・サン・ランディビジョン
トリーパーチ・ジャパン
フルラジャパン

金融業、保険業

三菱UFJ銀行

三井住友信託銀行
常陽銀行
池田泉州銀行
但馬銀行
紀陽銀行
広島銀行
豊橋信用金庫
尼崎信用金庫
中兵庫信用金庫
香川県信用組合
あいおいニッセイ同和損害保険
共栄火災海上保険
住友生命保険
太陽生命保険
日本生命保険
明治安田生命保険
農林中央金庫
紀の里農業協同組合
兵庫六甲農業協同組合
NTT・TCリース
MS&AD事務サービス
三井住友トラスト・ビジネスサービス
明治安田オフィスパートナーズ

不動産業、物品賃貸業

三井住友トラスト不動産
三菱UFJ不動産販売
阪急阪神ビルマネジメント

宿泊業、飲食サービス業

神戸ポートピアホテル
星野リゾート
ホテルモントレ
リゾートトラスト

教育、学習支援業

福井大学
兵庫医科大学
大阪市中学校教員

兵庫県中学校教員
兵庫県立学校職員
神戸市小学校教員
和歌山県中学校教員
岡山市中学校教員
ECC
島村楽器

医療、福祉

社会保険診療報酬支払基金
日本年金機構
大阪府国民健康保険団体連合会

サービス業

アース環境サービス
学情
サイバーエージェント
JALナビア
セコム
総合警備保障
PwC京都監査法人
楽天野球団

公務

防衛省 陸上自衛隊
国税庁 熊本国税局
警視庁
千葉県
川崎市
滋賀県警察
大阪府
大阪市
豊中市
兵庫県警察
明石市
加古川市
高知県警察

備考

- 前期末卒業を含まない
- 就職者/自営業主等(音楽講師等、自営とみなした者を含む)
常用労働者(無期雇用労働者、フルタイム勤務相当の有期雇用労働者)
- 社名は、変更されている場合があります

神戸女学院大学

主な進学先(2023年3月卒業生)

学校名
英文学科
神戸女学院大学大学院 文学研究科
神戸大学大学院 国際協力研究科
総合文化学科
立命館大学大学院 文学研究科
関西大学大学院 文学研究科
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科
神戸市外国語大学大学院 外国語学研究科
音楽学科
神戸女学院大学大学院 音楽研究科
心理・行動科学科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科
大阪公立大学大学院 文学研究科
神戸松蔭女子学院大学大学院 文学研究科
愛媛大学大学院 教育学研究科
環境・バイオサイエンス学科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科
筑波大学大学院 理工情報生命学術院
神戸大学大学院 医学研究科
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科
兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
広島大学大学院 統合生命科学研究科
九州大学大学院 生物資源環境科学府

年度毎の就職決定状況

	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職決定者/就職希望者	進学者数(大学院)	就職決定者/卒業生-院進学者
2018年度(2019年3月卒業生)						
英文	169	157	156	99.4%	3	94%
総合文化	211	199	196	98.5%	4	94.7%
音楽	47	22	22	100%	7	55%
心理・行動	86	63	61	96.8%	16	87.1%
環境・バイオサイエンス	88	74	74	100%	8	92.5%
総計	601	515	509	98.8%	38	90.4%
2019年度(2020年3月卒業生)						
英文	165	151	149	98.7%	1	90.9%
総合文化	219	203	198	97.5%	1	90.8%
音楽	44	23	23	100%	8	63.9%
心理・行動	95	83	83	100%	5	92.2%
環境・バイオサイエンス	76	68	68	100%	7	98.6%
総計	599	528	521	98.7%	22	90.3%
2020年度(2021年3月卒業生)						
英文	161	136	134	98.5%	3	84.8%
総合文化	223	196	192	98.0%	2	86.9%
音楽	44	27	27	100%	4	67.5%
心理・行動	108	86	84	97.7%	7	83.2%
環境・バイオサイエンス	88	73	73	100%	7	90.1%
総計	624	518	510	98.5%	23	84.9%
2021年度(2022年3月卒業生)						
英文	153	132	131	99.2%	6	89.1%
総合文化	219	190	187	98.4%	6	87.8%
音楽	23	11	11	100%	3	55.0%
心理・行動	105	83	82	98.8%	11	87.2%
環境・バイオサイエンス	83	66	65	98.5%	10	89.0%
総計	583	482	476	98.8%	36	87.0%
2022年度(2023年3月卒業生)						
英文	146	130	129	99.2%	7	92.8%
総合文化	216	191	188	98.4%	4	88.7%
音楽	44	26	26	100%	6	68.4%
心理・行動	100	77	76	98.7%	10	84.4%
環境・バイオサイエンス	101	81	81	100%	11	90.0%
総計	607	505	500	99.0%	38	87.9%

神戸女学院中高部

進学状況は非公表



役員・評議員 (2022年5月1日現在)

理事

第1号理事

院長(理事長) ▶ 定員1名、現員1名
飯 謙

第2号理事

学長 ▶ 定員1名、現員1名
中野 敬一

第3号理事

中高部長 ▶ 定員1名、現員1名
森谷 典史

第4号理事

めぐみ会※1 推薦会員で理事会選任
▶ 定員3名、現員3名

中山 真美子
和氣 節子
松本 真千子

第5号理事

評議員会選任 ▶ 定員2名、現員2名

伊藤 良子
皆本 礼子

第6号理事

コーポレーション※2 推薦 理事会選任
▶ 定員3名、現員3名

伊藤 榮子
山内 雅子
溝口 薫

第7号理事

理事会選任学識経験者
▶ 定員4名、現員4名

柴谷 享一郎
菅根 信彦
佐藤 容子
橋本 恵里子

監事

▶ 定員2名、現員2名

伊藤 恭子
田淵 結

※1 めぐみ会

正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2 コーポレーション

[Kobe College Corporation-Japan Education Exchange]は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

評議員

第1号評議員

学識経験者(理事会選任)
▶ 定員11名、現員11名

石井 俊平
フォーリー 淳子
伊藤 良子
関本 雅子
内山 由紀
岡崎 成子
芹野 與幸
内田 樹
内藤 能
久保田 哲夫
西澤 他喜衛

第2号評議員

卒業生(めぐみ会推薦 評議員会選任)
▶ 定員8名、現員8名

皆本 礼子
三川 摩子
加藤 敬子
小澤 妙子
大黒 泰子
山内 雅子
杉本 千代子
前田 厚子

第3号評議員

教職員(理事会推薦 評議員会選任)
▶ 定員8名、現員8名

大澤 香
和氣 節子
立石 浩一
大門 光歩
喜多 牧子
北田 京子
北條 敦子
松永 千香

第4号評議員

コーポレーション推薦 評議員会選任
▶ 定員4名、現員4名

Rusterholz Andreas Heinrich
田邊 欧
水野 多美
小澤 純子



教職員 (2022年5月1日現在)

学部・学科		専任教員数				
		教授	准教授	専任講師	助教	計
文学部	英文学科	7	7	1	0	15
	総合文化学科	14	9	2	0	25
音楽学部	音楽学科	8	5	3	0	16
人間科学部	心理・行動科学科	7	4	1	0	12
	環境・バイオサイエンス学科	11	2	2	0	15

	教諭
高等学部	21
中学部	20
計	41

	専任事務職員	契約職員	計
法人	18	1	19
大学	49	4	53
中高部	5	0	5
計	72	5	77

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	3	8	11
週3日	1	6	7
週2日	0	3	3
週1日	0	0	0
計	4	17	21

在籍教職員数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大学	専任教員	84	86	86	86	83
	非常勤講師	417	425	417	417	413
	大学計	501	511	503	503	496
中高部	専任教員	43	43	42	40	41
	非常勤講師	23	25	27	35	33
	中高部計	66	68	69	75	74
計		567	579	572	578	570

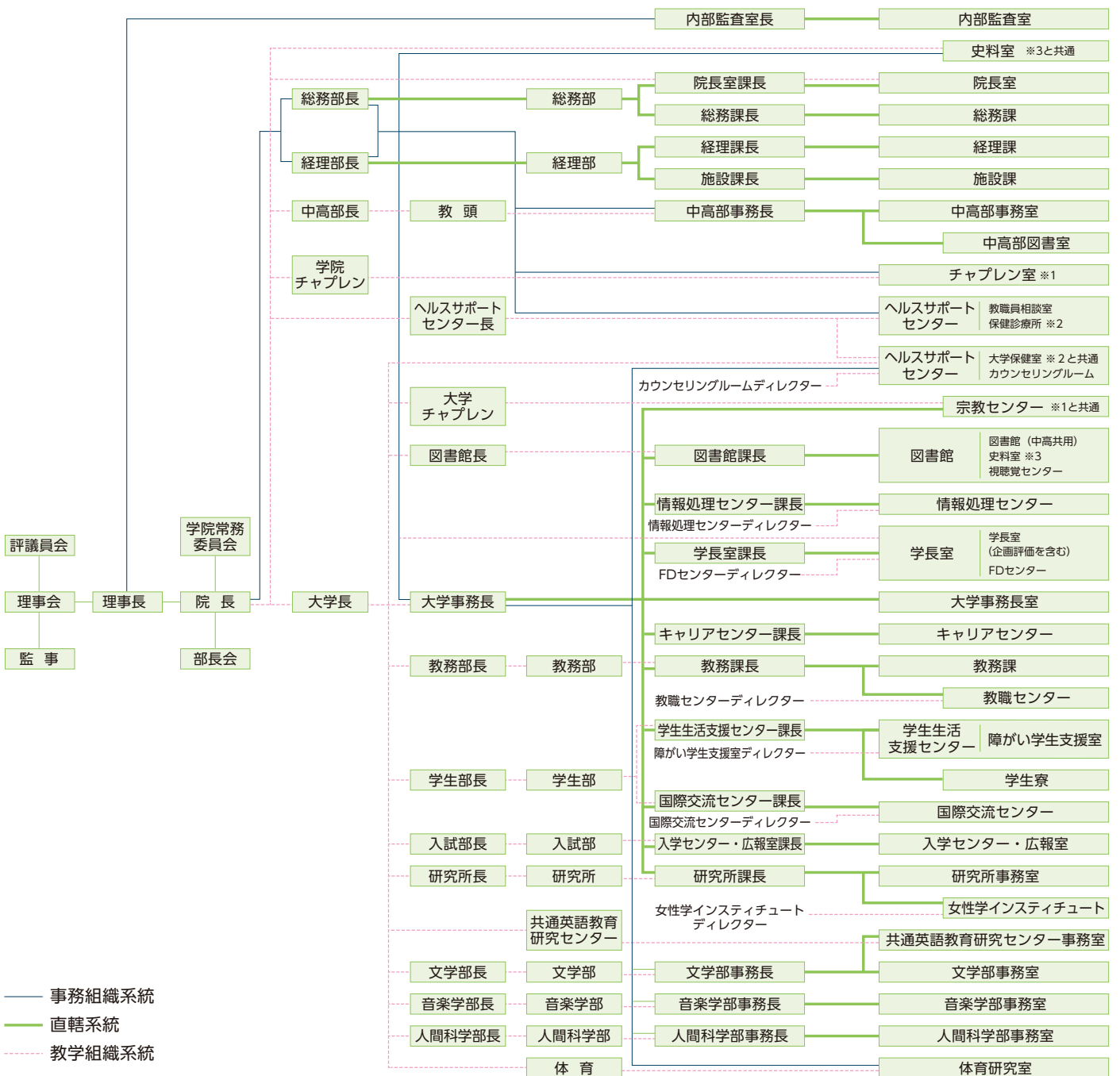
非常勤講師数は学校基本調査届出計数による

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
法人	専任職員*	79	84	82	83	77
	嘱託職員	22	20	20	21	21
計		101	104	102	104	98

*契約職員含む



事務組織図 (2022年5月1日現在)



学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は永続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

このように、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守すべき統一的な会計処理基準として「学校法人会計基準」が定められています。これに従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの計算書類を作成し公開しています。

2022年度決算について

2022年度は入学者が454名(編入学者1名を含む)となり、前年度をさらに25名下回りました。このことにより大学の在籍者数は2,230名と前年度比174名減少し、学納金等が大幅に減少しました。引続き学院をあげて経費削減に取組んだほか、前年度多額に上ったIT投資の反動減のため経費は大幅に減少しましたが、経常収支は1億84百万円の赤字となりました。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動に対応する事業活動の収支の内容を示し、すべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために行うものです。2022年度の事業活動収支計算書の概要は以下の通りです。

教育活動収支差額

教育活動収入は、学校法人の本業である教育活動からの収入です。2022年度の教育活動収入は、46億51百万円で、前年度比2億38百万円の減少となりました。内訳をみますと、学生生徒等納付金36億30百万円は、前年度比2億36百万円の大減です。補助金は、学生数が減少して収容定員に近づいたため経常費補助が増加し54百万円増加しました。寄付金121百万円は、大口の遺贈があったことを主因に47百万円増加しました。また、入学検定料の減少により、手数料収入は51百万円と前年度比5百万円減少となりました。付随事業収入も58百万円と前年度比12百万円減少しました。また、私立大学退職金財団等交付金の減少等により、雑収入は1億63百万円と前年度比85百万円の減少となりました。

教育活動支出は、学校法人の本業である教育活動に関する支出です。2022年度の教育活動支出は、48億67百万円で前年度比3億40百万円の減少となりました。内訳をみると、人件費30億25百万円は前年度比1億91百万円の減少となりました。教育研究経費は14億43百万円で前年度比2億22百万円の減少となりました。これは、前年IT投資に伴い計上されていた業務委託費等が剥落したことによるものです。管理経費は3億99百万円と75百万円増加しました。

以上の結果、教育活動収支差額は2億16百万円の赤字となりました。前年度比で1億3百万円の赤字幅縮小となっています。

経常収支差額

経常収支差額は、教育活動収支差額に主に財務活動の収支である教育活動外収支差額を加算した額です。2022年度の教育活動外収支差額は、金銭信託等の運用により32百万円の黒字となりました。経常収支差額は、1億84百万円の赤字と、前年度比では1億10百万円の赤字幅縮小となりました。

基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額に特別収支差額3億6百万円を加えた基本金組入前当年度収支差額は、1億22百万円の黒字に転換し、前年度比では、3億57百万円の改善となりました。東京寄宿舍クローバーハウスの売却益計上が主因です。

2022年度の基本金組入額合計は、5億23百万円で、前年度に比べて3億56百万円増加しました。これは、「理学館西側地域再整備計画」に関連して第2号引当金組入を行ったためです。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差引いた当年度収支差額は、4億2百万円の赤字となり、前年度とほぼ同額となりました。

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
教育活動収支				
事業活動収入の部				
学生生徒等納付金	3,647	3,630	3,866	△ 236
手数料	58	51	56	△ 5
寄付金	136	121	74	47
経常費等補助金	633	628	575	54
付随事業収入	55	58	70	△ 12
雑収入	147	163	247	△ 85
教育活動収入計	4,675	4,651	4,889	△ 238
事業活動支出の部				
人件費	2,993	3,025	3,217	△ 191
教育研究経費	1,444	1,443	1,666	△ 222
管理経費	439	399	324	75
徴収不能額等	-	-	1	△ 1
教育活動支出計	4,877	4,867	5,207	△ 340
教育活動収支差額	△ 201	△ 216	△ 318	103
教育活動外収支				
事業活動収入の部				
受取利息・配当金	30	32	25	7
その他の教育活動外収入	-	-	-	-
教育活動外収入計	30	32	25	7
事業活動支出の部				
借入金等利息	1	1	1	△ 0
その他の教育活動外支出	-	-	-	-
教育活動外支出計	1	1	1	△ 0
教育活動外収支差額	29	32	24	7
経常収支差額	△ 173	△ 184	△ 294	110
特別収支				
事業活動収入の部				
資産売却差額	380	252	-	252
その他の特別収入	4	59	99	△ 39
特別収入計	384	312	99	213
事業活動支出の部				
資産処分差額	10	6	38	△ 31
その他の特別支出	-	-	2	△ 2
特別支出計	10	6	40	△ 33
特別収支差額	374	306	59	247
基本金組入前当年度収支差額	201	122	△ 235	357
基本金組入額合計	△ 104	△ 523	△ 168	△ 356
当年度収支差額	97	△ 402	△ 402	1
前年度繰越収支差額	△ 1,989	△ 1,989	△ 1,587	△ 402
基本金取崩額	-	241	-	241
翌年度繰越収支差額	△ 1,892	△ 2,150	△ 1,989	△ 161

(参考)

事業活動収入計	5,088	4,996	5,013	△ 17
事業活動支出計	4,887	4,874	5,248	△ 374

教育活動収支

経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。

教育活動外収支

主に財務活動(資金調達と資産運用に係る活動)の収支。

経常収支差額

経常的な事業活動による収入(経常収入)とコスト(経常支出)の収支差額(バランス)。

特別収支

特殊要因による臨時的な事業活動収入(施設設備取得に対する補助金等)や資産売却損益等。

基本金組入前当年度収支差額

旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。

基本金組入額合計

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。

当年度収支差額

旧消費収支差額。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。

前年度繰越収支差額

翌年度繰越収支差額

当年度収支差額の累積額。

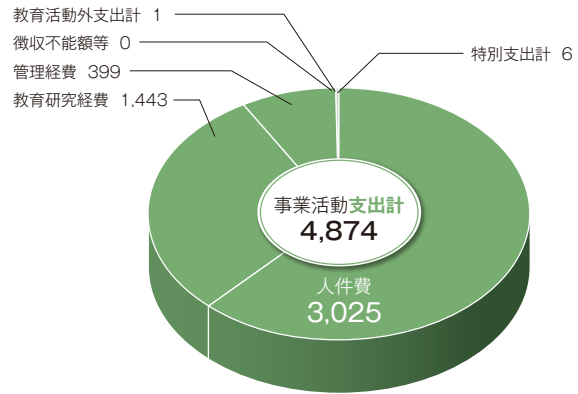
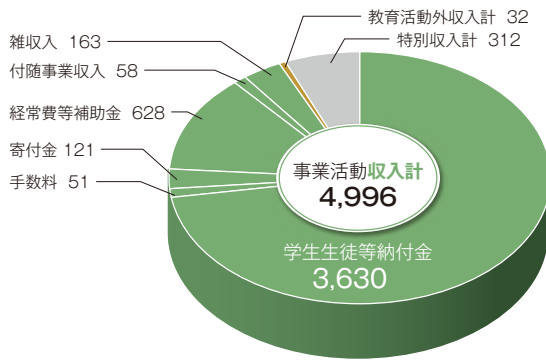
事業活動収入

旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入(現物寄付を含む)。

事業活動支出

旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。

事業活動収支の内訳



(単位：百万円)

- 教育活動収支
- 教育活動外収支
- 特別収支

事業活動収支推移 (収入・支出)

(単位：百万円)

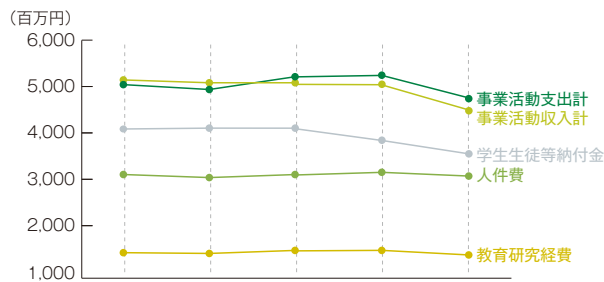
科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入	5,140	5,082	5,085	5,013	4,996
事業活動支出	5,042	4,940	5,114	5,248	4,874
基本金組入額	180	496	20	168	523
学生生徒等納付金	4,114	4,133	4,133	3,866	3,630
手数料	107	97	68	56	51
補助金(教育+特別)	458	469	556	671	650
人件費	3,162	3,098	3,148	3,217	3,025
教育研究経費	1,527	1,512	1,627	1,666	1,443
管理経費	341	318	326	324	399

事業活動収支推移 (収支差額)

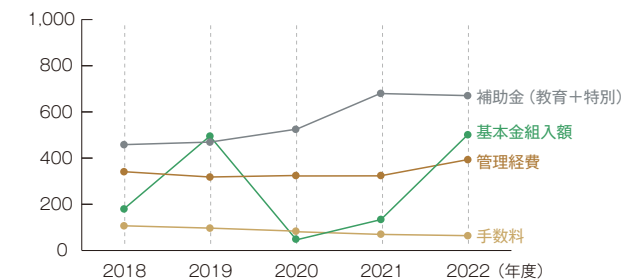
(単位：百万円)

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支差額	25	20	△ 58	△ 318	△ 216
教育活動外収支差額	52	85	25	24	32
経常収支差額	77	105	△ 33	△ 294	△ 184
特別収支差額	20	37	3	59	306
基本金組入前 当年度収支差額	98	142	△ 29	△ 235	122
当年度収支差額	△ 82	△ 354	△ 49	△ 402	△ 402

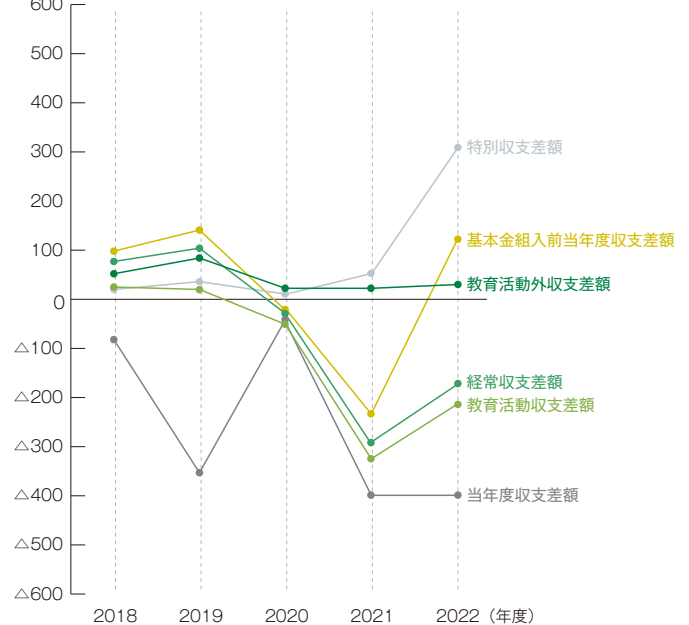
1,000 ~ 6,000 百万円



0 ~ 1,000 百万円



(百万円)



資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに支払資金（現預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。事業活動収支計算書と資金収支計算書はその作成目的が異なるため、事業活動収支計算書では資金の出入りを伴わない項目も計上されますが、資金収支計算書では資金の出入りが反映されます。例えば、有価証券の売却を行った場合、事業活動収支計算書では、売却収入と有価証券の簿価（有価証券の取得価額）の差額が資産売却差額（または資産処分差額）として計上されますが、資金収支計算書では、売却収入額が計上されます。2022年度の資金収支計算書の概要は以下の通りです。

資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
学生生徒等納付金収入	3,647	3,630	3,866	△ 236
手数料収入	58	51	56	△ 5
寄付金収入	125	135	75	60
補助金収入	635	650	671	△ 21
資産売却収入	865	1,515	0	1,515
付随事業・収益事業収入	55	58	70	△ 12
受取利息・配当金収入	30	32	25	7
雑収入	147	158	244	△ 85
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	551	521	544	△ 23
その他の収入	2,720	2,721	227	2,494
資金収入調整勘定	△ 640	△ 674	△ 860	185
前年度繰越支払資金	3,261	3,261	3,663	△ 403
収入の部合計	11,453	12,059	8,583	3,476

(参考)

収入の部合計 -前年度繰越支払資金	8,192	8,798	4,920	3,879
----------------------	-------	-------	-------	-------

収入の部

以下、2022年度の資金収支の収入の部について説明しますが、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

資産売却収入は前年度0でしたが、2022年度は不動産売却と有価証券売却に伴う収入が15億15百万円計上されています。借入金等収入は2022年度もありませんでした。前受金収入は、2022年度入学者が2021年度よりさらに減少したため5億21百万円となり、前年度比23百万円減少しました。また、その他の収入は前年度少額であった退職給与引当特定資産の振替に伴う特定資産取崩収入が再び増加したこと、前年度なかった減価償却引当資産の取崩を行ったことを主因に、27億21百万円となり、前年度比24億94百万円の増加となりました。

支出の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
人件費支出	2,990	3,021	3,250	△ 229
教育研究経費支出	1,155	1,153	1,377	△ 224
管理経費支出	413	374	299	74
借入金等利息支出	1	1	1	△ 0
借入金等返済支出	13	13	13	0
施設関係支出	57	55	135	△ 80
設備関係支出	47	52	174	△ 122
資産運用支出	2,400	3,922	59	3,862
その他の支出	167	192	179	13
資金支出調整勘定	△ 173	△ 181	△ 165	△ 16
翌年度繰越支払資金	4,382	3,459	3,261	198
支出の部合計	11,453	12,059	8,583	3,476

(参考)

支出の部合計 -翌年度繰越支払資金	7,070	8,600	5,322	3,278
----------------------	-------	-------	-------	-------

支出の部

次に、2022年度の支出の部について説明します。収入の部同様に、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

借入金返済支出は、2022年度も約定返済により、前年度と同額の13百万円となりました。施設関係支出は、前年度のIT投資に伴う支出が剥落したことを主因に55百万円と前年度比で80百万円減少しました。設備関係支出も同様の事情により52百万円と前年度比では1億22百万円の減少となっています。資産運用支出は、前年度なかった有価証券購入支出、第2号基本金引当特定資産繰入支出、退職給与引当特定資産繰入支出、減価償却引当特定資産繰入支出があったため、39億22百万円と前年度比38億62百万円増加しました。

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態(運用形態と調達源泉)を明らかにするものです。
2022年度の貸借対照表の概要は次の通りです。

貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	14,917	14,865	52
有形固定資産	7,923	8,378	△ 455
土地	1,439	1,693	△ 254
建物	3,535	3,687	△ 152
構築物	380	405	△ 25
教育研究用機器備品	437	474	△ 37
管理用機器備品	31	33	△ 2
図書	2,097	2,087	11
車両	1	1	1
建設仮勘定	2	0	2
特定資産	6,889	6,361	528
第2号基本金引当特定資産	494	0	494
第3号基本金引当特定資産	1,692	1,662	29
退職給与引当特定資産	1,400	1,396	5
減価償却引当特定資産	3,137	3,137	0
岡田山建築保存引当特定資産	167	167	0
その他の固定資産	105	126	△ 21
電話加入権	4	4	0
ソフトウェア	10	14	△ 4
有価証券	0	0	0
差入保証金	4	4	0
出資金	21	21	0
貸与奨学金	66	82	△ 17
その他	0	0	0
流動資産	3,619	3,581	38
現金預金	3,439	3,241	198
修学旅行費預り資産	19	20	△ 0
未収入金	130	301	△ 170
前払金	30	20	10
資産の部合計	18,536	18,447	89

資産の部

2022年度末の固定資産は、149億17百万円と前年度比52百万円の増加となりました。前年度比増加の要因は、主に、第2号基本金組入による特定資産の増加です。

2022年度末の流動資産は36億19百万円となり、前年度比では、現金預金の増加を中心に、38百万円の増加となりました。

2022年度末の資産の部合計は、185億36百万円と前年度比89百万円の増加となりました。

負債の部

2022年度末の固定負債は、15億18百万円と前年度比9百万円の減少となりました。これは、私立学校振興・共済事業団からの長期借入金に約定返済により13百万円減少したためです。

2022年度末の流動負債は、8億23百万円となり、前年度比24百万円の減少となりました。これは、新入生の減少により、前受金が減少したことによるものです。

2022年度末の負債の部合計は、23億41百万円となり、前年度比32百万円の減少となりました。

負債の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,518	1,527	△ 9
長期借入金	118	131	△ 13
退職給与引当金	1,400	1,396	5
流動負債	823	847	△ 24
短期借入金	13	13	0
未払金	170	156	13
前受金	521	544	△ 23
預り金	100	113	△ 13
修学旅行費預り金	19	20	△ 0
負債の部合計	2,341	2,374	△ 32

純資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	18,345	18,062	283
第1号基本金	15,805	16,046	△ 241
第2号基本金	494	0	494
第3号基本金	1,692	1,662	29
第4号基本金	354	354	0
繰越収支差額	△ 2,150	△ 1,989	△ 161
翌年度繰越収支差額	△ 2,150	△ 1,989	△ 161
純資産の部合計	16,195	16,073	122
負債及び純資産の部合計	18,536	18,447	89

純資産の部

2022年度末の基本金は、183億45百万円となり、前年度比2億83百万円の増加となりました。前年度比増加の主因は、第1号基本金*が2億41百万円減少した一方で、第2号基本金**組入を開始して初年度4億94百万円を組入れたこと、第3号基本金***が29百万円増加したことによるものです。

2022年度末の繰越収支差額は△21億50百万円となり、前年度比で、事業活動収支における当年度収支差額(△4億2百万円)と基本金取崩額(2億41百万)の合計相当額(△1億61百万)相当分、マイナス幅が拡大しております。

- * 第1号基本金は、学校法人が設立当初に取得した教育の用に供される固定資産および教育の充実向上のために取得した固定資産の価額となっています。
- ** 第2号基本金は、学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額となっています。
- *** 第3号基本金は、基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額となっています。

財務比率の推移

過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次の通りです
(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)。

事業活動収支計算書関係比率

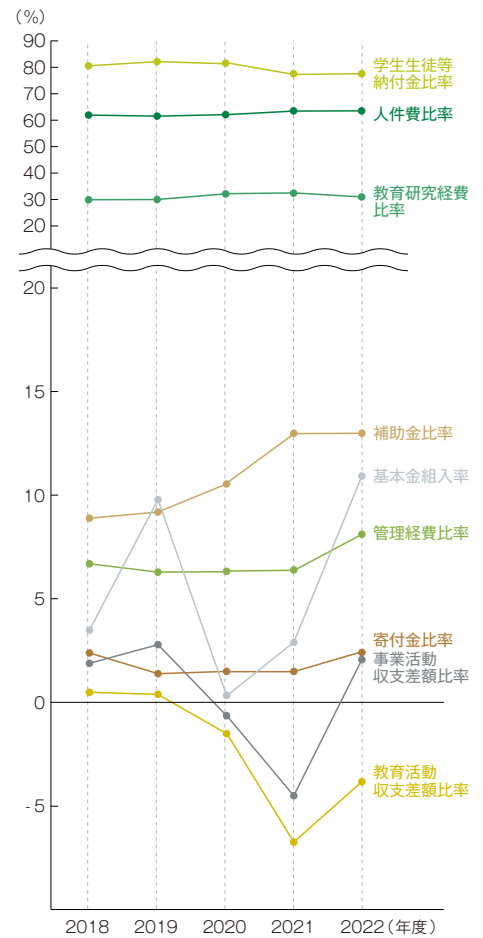
(単位:%)

比率名	計算式	評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均	同規模平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	61.9	61.5	62.1	65.5	64.6	51.3	49.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	29.9	30.0	32.1	33.9	30.8	34.3	37.5
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	6.7	6.3	6.4	6.6	8.5	8.3	7.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	-	80.5	82.1	81.5	78.7	77.5	73.6	51.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	2.4	1.4	1.6	1.5	2.6	2.2	1.5
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	8.9	9.2	10.9	13.4	13.2	14.3	14.3
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	0.5	0.4	-1.2	-6.5	-4.6	4.2	4.7
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	1.9	2.8	-0.6	-4.7	2.6	6.4	5.8
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	3.5	9.8	0.4	3.3	11.3	10.1	9.2

(注) 1. 評価欄は「△:高い値が良い」「▼:低い値が良い」「-:どちらともいえない」を示しています。
(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)

2. 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

3. 平均値は2021年度決算の平均値であり、全国平均は医歯系法人を除く全国520大学法人の平均値、同規模平均は学生生徒数3~5千人規模の全国115大学法人の平均値を示しています。



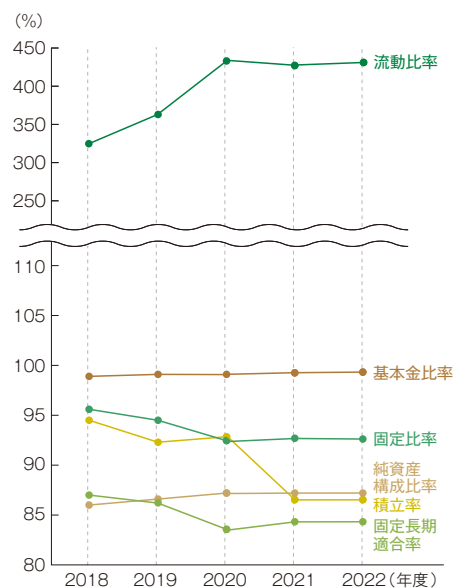
貸借対照表関係比率

(単位:%)

比率名	計算式	評価	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均	同規模平均
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	324.9	363.1	444.1	423.0	439.7	262.9	306.1
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	95.6	94.5	91.5	92.5	92.1	97.6	95.3
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	▼	87.0	86.2	83.4	84.5	84.2	90.8	88.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	98.9	99.1	99.0	99.1	99.3	97.3	97.4
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	86.0	86.6	87.0	87.1	87.4	88.0	87.7
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	94.5	92.3	91.6	86.7	87.4	78.4	70.3

(注) 1. 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券

要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2号基本金 + 3号基本金





2021—2025年度

中期計画

(2021年3月24日 理事会承認)

はじめに

神戸女学院は1875年の創立以来、「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」を軸とする少人数制の女性教育によって、才気あふれる卒業生を輩出してまいりました。わたくしたちはこれからも、時代と対話しつつ、永久標語「愛神愛隣」への理解を深め、培ってきた教育の姿勢をさらに展開させ、高い他者共感性を備えて世界に仕え、もって未来を切り拓く生徒・学生を送り出してまいります。

本学院の創立者であるお二人の女性宣教師は、米国最初の海外宣教団体アメリカンボードより派遣され、切支丹禁令の高札撤去直後の1873年4月、神戸に着任されました。伝道開始から間もなく出会った数名の婦人らより子女への教育を請われ、私塾で聖書と英語と音楽などを教えます。二年後に「女学校」が開設されました。開校に際して、創立者イライザ・タルカットは、生徒たちに「目を上げ、背筋を伸ばし、前を見なさい」と語りかけ、神の前に一人の人として立つ自立のかつ自律的な、聖書に基づく人間の在り方を示しました。もう一人の創立者ジュリア・ダッドレーも

「愛神愛隣」の聖句をもって、キリスト教の理解に大切な「隣人愛」を教えました。お二人に続く宣教師の先生方は教育の方法としてリベラルアーツの理念を導入し、今日の礎を築られました。現在、神戸女学院には中学部、高等学部、大学、大学院に約3,500人が学び、多様な場面に立ち向かい知性と教養を身につけるため、それぞれの目標と専門に応じた研鑽を重ねています。

今般の中期計画を立てるにあたり、大学と中高部はそれぞれ教育の基本認識を提示しました。キリスト教、国際理解、リベラルアーツ、高い共感力、豊かな人間性など、先達から継承した多くの指標が共有されています。私学は元来、訴えるべきメッセージがあって歩み始めた教育共同体です。2025年、わたくしたちは創立150周年を迎えます。受け継いできたものを次世代へと架橋するよう努めつつ、お支えくださる方々の思いに学び、不足点をただし、女性への教育機関としての意味をさらに問い、校地・校舎の更新、リベラルアーツ教育の深化、教育・研究環境の改善、グローバル化・技術化への対応、社会からの要請など諸課題に取り組み、新たな歴史を創り出してまいります。

理事長・院長 飯 謙

大学

神戸女学院大学は、キリスト教主義、国際理解の精神、リベラルアーツ教育の3つの教育の柱を掲げ、主体的に学び、高い共感力と対応力、それらを素地とした専門的能力を備え、様々な場面でリーダーシップを発揮することの出来る女性を育てることを教育の目標としています。

この目標を達成するための教育の場であり続けるために、これからの5年間、以下の項目を実施致します。

- ① 2017年度より施行の新カリキュラムの効果の検証をし、必要に応じたりベラルアーツ教育のさらなる可視化、強化を目指した改訂を施す。
- ② アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーなどに記載の本学学修目標のさらなる可視化を実践し、今後の質保証・教学マネジメントの体制を整備する。
- ③ 受験生に分かりやすい本学の情報を継続的に提供するとともに、新学習指導要領および入試改革に適切に対応した入試の体制を整備する。
- ④ ウィズ・コロナ、アフター・コロナにおいての、学修者に寄り添った教育の体制を整備する。キャンパスと教室を活用した対面授業の充実と、時代に即した質の高いオンライン教育の両立を図り、さらにリカレント教育、教育の国際化などに対応できる体制を強化する。
- ⑤ 教育研究環境及び組織の整備と質の向上、特に、教員のジェンダーバランスの適正な維持、研究者養成も含む、学修者・研究者の多様化に対応出来る体制を整備する。これに伴い、本学が求める教員像との関連を考慮し、教員構成のあり方について検討する。
- ⑥ 学長を中心とした組織部署の適切性の検証をし、大学全体のガバナンスのあり方を持続的に検証する。
- ⑦ 地域連携・国際連携活動を通し、SDG s に対応出来る人材を育成し、全学レベルでSDG s との関わり方についての共通認識を醸成する。
- ⑧ 2025年学院創立150周年に向け、学院とともに多様な学生の姿に対応したハードおよびソフト面の教育体制を立案し、具体化する。

中高部

神戸女学院中学部・高等学部は、キリスト教による人格形成、国際理解のための英語教育、生徒の主体的な学び、を尊重することにより、豊かな人間性とリーダーシップを持った自立した女性を育てることを教育の目標としています。

これからの5年間において、真理を探究する学びの場としてのふさわしい環境を整えるために、以下の6項目を実施していきます。

- ① 少人数化クラスの教育環境を順次整える。また、校舎の改装をする。
- ② 問題を抱える生徒に寄り添い対応していくことができるように、特別支援体制を整える。
- ③ ITを用いた適切な教育環境、学習形態を再検討し、その体制を整える。
- ④ 課外活動である放課後のクラブ活動について、学校が担える部分と、外部の方が担える部分との検討をし、体制を整える。
- ⑤ 学習環境を整えるために、葆光館、アンジー・クルー記念館の空調システムや、ロッカー室の整備を行う。また、老朽化の進んだ部分の改修工事を行う。
- ⑥ 新学習指導要領に対応した、新しいカリキュラムを作成し実施する。

2023年度 事業計画書

公表にあたって

(2023年4月26日 理事会承認)

神戸女学院に連なる皆様、ここに「2023年度事業計画書」をお示しいたします。

2021年度、2022年度と続いた大学の入学者減少は、学院財政に大きな打撃をもたらし、その影響は2023年度にも及んでいます。この事業計画書は、教職員のお一人お一人に、本年度に予想される厳しい状況に対して相応しい働きを求めています。困難な現実には直面してはいますが、決して悲観的感情に捉われる必要はありません。大学は一般の大学格付会社の調査で、教育力や実就職率などにおいて、全国的に高い評価をいただいています。中高部の社会における位置づけについて、いまここで繰り返す必要はないでしょう。集い来る生徒・学生のため、まずは私たち自身がこれらの長を深めるよう努めることが肝要です。

現下に突き付けられている諸問題は、これら優位な長も含めて、社会における神戸女学院の存在意義を問い直すよう促していると考えます。私どもは2年後に創立150周年を迎えますが、本学院は150年をはるかに越えて歩みを続けてまいります。もちろん先は見えにくいとしても、少なくとも今後10年を展望し、冷静かつ慎重に道筋を定めてまいります。

当面は現在大学が進める学部・学科の改組に注力します。合わせて、中高部も共に、さらなる彼方に向けての議論も並走させ、これからは真実の意味で社会に奉仕できる女性リーダーが輩出する学び舎であり続けるため、本年度にできることを実行してまいります。

いくつか具体的なポイントを申し述べます。

第一には安定的な財務基盤の確立です。経費節減は必要ですが、収入面では学納金への依存度が高い経営態のリスクは否定できません。そこで2022年度は資金運用管理規程等の一部を見直して運用の自由度をやや増すことと

しました。寄付のお願いも戦略的観点から再考の必要があると自覚しています。米国の大学を一つのモデルとし、学納金、寄付金、運用益という3本柱で経営を支える方式を目指します。

第二に、学習意欲が高く、自身の求める学びの場を、自身の尺度で選び取ろうとする生徒・学生の意識に訴えるカリキュラムを提供することです。これは現在進行中の教学改革で実現していくでしょう。特に大学については、職員も含め、学内外の知見を結集する工夫が必要となります。入学後の努力が報われる奨学金制度も視野に納めてまいります。

そして、特長と改革を効果的に社会に公表する方途の工夫、「ブランディング戦略」の構築と実行を優先課題としています。

2023年度事業計画には、それらを実現するための仕掛けをふんだんに盛り込みました。もちろん、厳しい面は隠さず明示しています。それは現実と向き合い、堅実な一歩を踏み出すために必要なことです。この事業計画書から、冷徹な自己分析と、未来に向けて踏み出す明確な意志を読み取っていただけましたら、幸いに存じます。

本年は創立者イライザ・タルカット先生、ジュリア・ダッドレー先生の来日150周年にあたります。お二人は「愛神愛隣」のメッセージを携え、禁教下の日本を思い、危険をも顧みず太平洋を渡られました。私どもはその思いを受け継ぎ、解放された人として社会に仕え、また互いの喜びと信頼のためにリーダーシップを取る女性が輩出する学院の構築に全力を尽くしてまいります。

学校法人神戸女学院
理事長・院長

飯 謙

事業計画

I. 新生神戸女学院の創出

2022年度大学入学者数は、454名(編入学者1名を含む)と2021年度の479名をさらに下回ることとなりました。2023年度についても回復の兆しは見られず、450名レベルの維持すら危ぶまれる状況です。

原因の1つとしてあげられるのは、本学院が重視してきた大学教育への姿勢に対する社会の要請の変化がありながらも、その動きを充分に見極めた対応に遅れがあったことです。また、女性教育機関への意識や大学生活に対する受験生の思いも多様化していますが、それらに向けて本学院が発信するメッセージも丁寧であったとは言えません。改めて教育内容のいっそうの充実をはかり、さらにキリスト教主義と国際理解の精神に込められた1人1人を大切にする教育の基(もと)、それを支える教育理念としてリベラルアーツ、その精神を具現し芸術性を備えたヴォーリズ建築など、本学院で学ぶ付加価値の高さを訴えるよう努めてまいります。

そこで、神戸女学院では2024年度、新たに文学部英文学科と人間科学部心理・行動科学科を独立させ、それぞれ「国際学部」と「心理学部」を創設することとしました。また音楽学部音楽学科の再編も完成を目指して準備を進めているところです。

2023年度は、この17年ぶりの学部改編等を梃子に神戸女学院の魅力を広く訴え入学者数減少に歯止めをかけるべく、新生神戸女学院の魅力と併せて建学以来培ってきた教育の底力を効果的にアピールするため全力を尽くしてまいります。

一方、環境・バイオサイエンス学科の魅力をどのようにアップするかについての議論は緒に着いたばかりであり、文学部総合文化学科に関しては改革の方向性を検討中であるため、いずれについても2023年度内には最良の結論に至れるよう、議論を進めてまいります。

なお、このような議論を進めるにあたっては、大学では改革委員会を組織して鋭意構想を深めていますが、この意志決定プロセスは尊重しつつ、さらにふさわしい教育プログラム策定のため、教職員が広い枠組みで自由闊達に意見を出し合う仕組みが望ましいと考えます。本年度はその構築を促し、2022年度に大学の各種委員会の構成員としてより多くの職員が加わることから始まった真の教職協働を目指した制度変更と意識改革を推進してまいります。

経営面におきましては、山積する課題を迅速に解決して

いくため、法人が本来的に備えるべき学院全体の経営を司る統括機能が十全に発揮されるよう組織運用面に工夫を加え、2023年度当初より新しい運用を開始します。また、大学事務組織についても、その機能が充分に発揮されるよう、事務体制と人員配置の合理化を進めてまいります。

1. 大学改革

2023年度入試においても入学者数の回復が見られず、本学にとっては厳しい状況が続いています。この状況からの脱却をはかるべく、2022年度に着手した大学改革を2023年度は目に見える形で動かし、「新しく」「動きのある」神戸女学院大学を広く認知させることが求められます。そのために具体的には以下の施策を実行します。

- 設置構想中の国際学部英語学科とグローバル・スタディーズ学科および心理学部心理学科、また新たな専攻を設置する音楽学部音楽学科については、早期からステークホルダーへの確かな周知を行い認知度の向上をはかります。
- 既存の文学部総合文化学科および人間科学部環境・バイオサイエンス学科については、独自性を明確にするとともに、より社会のニーズに合わせた発展に向けて検討を継続していきます。
- 大幅な改革を予定している入試制度については、これを着実に実行します。また入試広報については効果検証を確実にを行い、リソース投下の選択と集中をはかります。
- 前年度に引き続き、外部との接点をさらに拡充するために、新たに地域連携室(仮)を設けて窓口を一本化します。これにより、これまで個々の担当部署で培ってきたノウハウを集約します。
- 前年度にも挙げられていたスピーディーな組織への変革を実現するため、事務組織の見直しを行います。
- 教職協働については2022年度に行った委員会における構成員の見直しを踏まえ、各部門の施策において職員が主体的に関わり、国や社会の要請に迅速に対応できる体制作りを目指します。

2. 経営改革

1] 運営体制・組織の見直し

①各種改革に迅速かつ的確に対応するため、総務部・経理部の一体化により学院全体の本部機能を強化します。

前年度は事務組織のトップに事務局長を置くことを検討しましたが、新体制下で再検討した結果、既存の人員と組織体制を生かして本部機能を強化する方策を検討すべきとの結論に達しました。

そこで2023年度からは実質的に学院全体の本部機能を担うため、a. 総務部と経理部の職員に主担当以外に幅広く副担当を持たせて1人1人が多様な業務を担えるようにすることにより両部を一体的に運用、全体として「法人統括部」と位置づける、b. 総務部長を法人統括部の代表である法人統括部長扱いとして学院運営の責任を担わせる、c. 高度な専門性が問われる経営企画・財務・運用を統括する経理部長は、法人統括部長を補佐し共に学院運営の責任を担うこととします。この新体制により山積する諸課題の解決に取り組むこととしました。

また、法人統括部には、学院の中長期計画(キャンパスブランドデザインを含む)及び広報・ブランディング戦略の策定、大学及び中高部の改革等について、教職員と必要に応じて協議し、学院常務委員会と連携しつつ意見を述べ、提案を行う等の役割を担う経営企画課を新たに設置します。

②大学事務組織・職員配置を合理化し、その機能をより発揮できるようにします。

- 2022年度は、大学事務長補佐を2名配置して大学事務体制の強化を実現したほか、大学の企画部門を担う総合職職員の採用も行いました。また必要に応じて兼務発令を行い事務運営の円滑化を図りました。もっとも、組織自体や部署間の役割分担の見直しは、2024年度の学部新設準備のため検討自体が先送りとなりました。2023年度は、学部新設準備の進捗に歩調を合わせながら可能な範囲で検討に着手してまいります。
- 2022年度の事業計画では入試広報を担う入学センターに加えて大学広報を担う広報課を設置し、相互の協力により効果的な広報を行うこととしておりました。広報課の新設には至りませんでした。入試広報とは別に、大学事務長の下で学部新設に関する広報の企画が行われた他、広報部門を担える専門的人材も2名採用する等一定の成果が現れました。

2023年度は、新たに設置される経営企画課の担うブランディング部門と入試広報、大学広報の役割分担と協力関係を明確化し、全体として学院の対外的アピールを強力に推進してまいります。

2] 人事・給与体系等の見直し

- 教職員が高いモチベーションをもって学院再生に邁進できるよう、年功序列によらず積極的に課題解決に取り組む教職員が報われ、職責と勤務状況の実態に即した納得感の得やすい人事・給与体系について組合とも協議しつつ検討を進めます。

3] 就業規則の見直し

- 理事会から課題が指摘されていた就業規則については、改正原案の成立に向けて、教職員の理解を得られるよう説明を尽くした上で、各組合との協議を進めてまいります。

4] 職員の人材充実と育成

- 高い専門知識と意欲を備えた若手総合職の採用を行うことにより、職員の補強とレベル向上を図ります。また、学院の将来を担える見識ある人材を育成するための方策を引続き検討し、実行に移してまいります。

5] 施設整備

- 凍結されていた「神戸女学院キャンパス再整備マスタープラン」については、2024年度の心理学部の独立を踏まえ、老朽化と狭隘化が著しい理学館別館の建替を中心とする「理学館西側地域再整備事業」の基本計画に着手し、創立150周年に当たる2025年秋の完成を目指します。2023年度は、基本設計及び実施設計を進めるべく関係部署、設計事務所の総力を結集してまいります。
- また並行して、デフォレスト館、文学部Ⅰ号館及びⅡ号館のリノベーション等、再整備マスタープランの他の計画については、大学における教育プログラムの議論進展を見極めつつ、可能な範囲で検討を進めてまいります。

6] 資産運用

- 前年度は、資金運用管理規程等を見直した上で、将来にわたる資金運用基本方針を策定しました。2023年度は、これを着実に実行してまいります。

Ⅱ. 部署別計画

1. 大学

1] 学生募集・広報の強化

- 適正な学生数を維持するため、2024年度新設の「国際学部」「心理学部」の告知を確実に実施します。特に高校生とその関係者に情報が到達するための施策を講じ、その効果を検証します。同時に、新たな入試制度を実装することにより、受験生に寄り添った入試実施の体制を構築します。
- 大学ホームページのリニューアルにより、高校生他ステークホルダーに対してわかりやすいサイトの構築を実現します。そのために人員の増強を行います。

2] アフターコロナをふまえた教育体制の整備

- 学生自身のパソコンの利用(BYOD)など、学生の多様な学修形態に対応したパソコン教室等のIT環境再整備について検討します。
- 「AI戦略2019に沿った数理・データサイエンス・AI教育」を推進し、文部科学省のリテラシーレベルの認定を目指します。

3] 国際連携・地域連携の強化

- 国際連携については、国際学部新設にも伴って、交換留学生のみならず正規外国人留学生を受け入れられる学内体制を構築します。
- 地域連携については、これまでプログラム別を実施してきた地域連携活動の運営体制を見直し、地域連携室(仮)の設置に向けて組織を再構成します。

4] 学修成果の可視化

- 学修成果の可視化に向けた情報処理基盤を整備します。2026年度の教学システムリプレイスに合わせ、学修ポートフォリオ等のシステム導入の検討を進め、学生目線での学習成果の把握と測定の方法について検討を行います。

5] 組織体制の強化

- 既存の大学事務組織の見直しを行い、よりスピーディーで弾力的な大学運営が実施できる体制を構築します。その先駆けとして学長室と大学事務長室において一部の業務を一体化します。

2. 中高部

1] 1クラス40人以下の教育環境の整備

- 2023年度より中学部35人×4クラス体制を決定したことを受けて、教員の配置計画と、校舎改築による教室整備計画を実施します。

2] 特別支援への対応強化

- 不安を抱える生徒への対応として、今年は生徒支援室を作り体制を強化します。

3] IT環境の整備

- IT環境整備の具体案を実施していくとともに、GIGAスクール構想に基づいた、1人1台環境を導入し、新しい授業を展開していきます。

4] クラブコーチ制への移行検討

- クラブコーチ制導入、利用のための条件について整備します。

5] 修学環境の整備

- 昨年度に引続き、葆光館空調システムの改修を行います。

3. 法人

1] 150周年記念事業

- 当面の教学改革の内容や、それに伴うキャンパス再整備マスタープラン再始動の方向性が明らかになったことを受け、事務局としては2023年度が新たなフェーズであることを認識し、150周年記念事業の具体的内容の検討や、記念募金の実施に向けた準備作業を加速してまいります。一例として、本学院の建学の理念等の理解をはかるための展示会等が考えられます。

2] 法人運営関係

- 法人統括部の設置により、大学の教学改革や組織改変など重要な案件に関し、学院全体の視点に立った助言や提言を行なってまいります。
- コロナ後という新たな環境において必要とされる、感染症への耐性を備えた教学活動実現に向けて、検討を進めてまいります。また、全国的に見られる治安状況の悪化傾向を踏まえ、キャンパスの安全確保のための方策を考えます。

3] 財務関係

- 2021年度、2022年度と連続して入学者数が大幅に減少しました。2023年度も回復は見通し難く、2022年度並みの入学者数を前提とした2023年度予算も、3年連続で事業活動収支が赤字となっています。また、2021年度、2022年度は、最低限の目標としてきた「キャッシュフローマイナス回避、運用資産残高の維持」は達成できましたが、2023年度当初予算においては、この目標も諦めざるを得ない状況です。

2023年度は、少なくとも当初予算で想定したキャッシュフロー不足を少しでも小さくするため、まず経費関係では、従来の仕組みや考え方、慣行にとらわれず、当該支出が合理的な根拠に基づくものであるか、無駄がないよう十分に管理された支出であるか等の観点から削減に取り組めます。また、こうした作業をスムーズに進めるために外部の知見も導入します。

人件費については、抜本的な収支改善には相応の削減は避けることができないとの基本認識のもと、年功序列によらず積極的に課題解決に取り組む教職員が報われ、職責と勤務状況の実態に即した納得感の得やすい人事・給与体系を構築することと併せて組合との協議を進めてまいります。

- 2023年度も基本的には低金利環境が継続するものと思われれます。こうした状況に対応するため、2022年度には資金運用管理規程等の一部を見直して運用の自由度をやや増しました。これを踏まえて新しく「資金運用基本方針」を定めましたので、その範囲内で金融資産運用による収入増を図ります。
- 「キャンパス再整備マスタープラン」については、2022年度に凍結が解除されました。今後必要とされる資金につきましては、東京寄宿舍クローバーハウスの売却により得られた資金を中心として2022年度から第2号基本金に繰入れ、計画的に確保してまいります。
- 従前より検討中の旅費規程の見直し作業については、既に作成している改訂案を組合に示して理解が得られ次第、進めてまいります。

4] 施設関連

①学院施設の充実

- 創立150周年に向けたキャンパス再整備計画として、西門バリアフリー整備及び新心理館新設計画の基本計画から実施設計までを行います。

- 学内各所のパッケージ式エアコンのうち、設置後20年が経過した機器について予防保全と性能向上による省エネルギーの観点から更新を進めます。
- オルチン館の空調配管の老朽化により空調効率が低下しているため、2023年度から3か年計画で1フロアずつ配管の更新を行います。
- 文学館・図書館本館用ボイラーを経年劣化のため更新します。その際、ボイラーの有資格者がいなくても運転可能なボイラーを採用し、休日や時間外でも部屋を使用できるようにします。

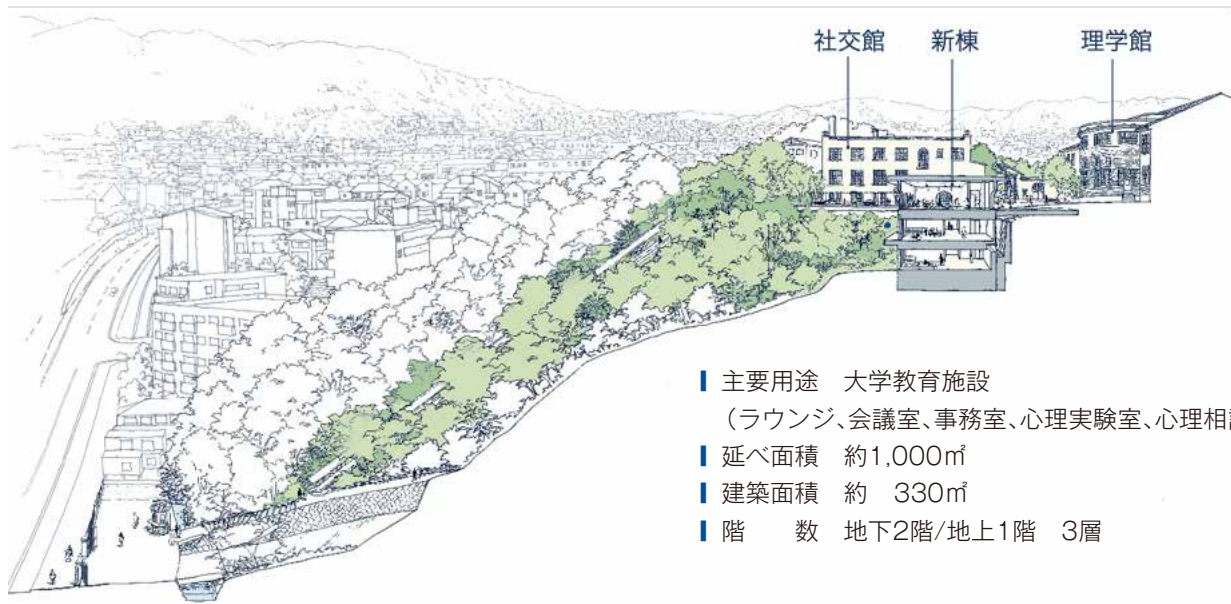
②重要文化財保存活用関係

- 美装化により順次進めている室内の塗装めくれ修理として、講堂前女子便所および総務館中庭側エントランス1階壁の補修を行います。
- 理学館屋根漏水修理として2021年度に瓦及び下地の状況を調査した結果を踏まえ、豪雨時に漏水が生じないように防水シートを敷設、傷んだ古瓦に補修を施した上、葺き直します。2022年度に南側の修理は終了しており、2023年度に残りの北側を実施することで理学館全体の修理を終了します。
- 2022年度から四か年計画の文化庁補助事業により正門及び門衛舎の保存修理事業を実施、2023年度は解体格納工事を行う予定です。
- 中学部4クラス化に伴い葆光館3階を教室に改修します。
- 教室となる葆光館3階西側をタルカット館と渡り廊下でつなぐことによりバリアフリー化を実現します。

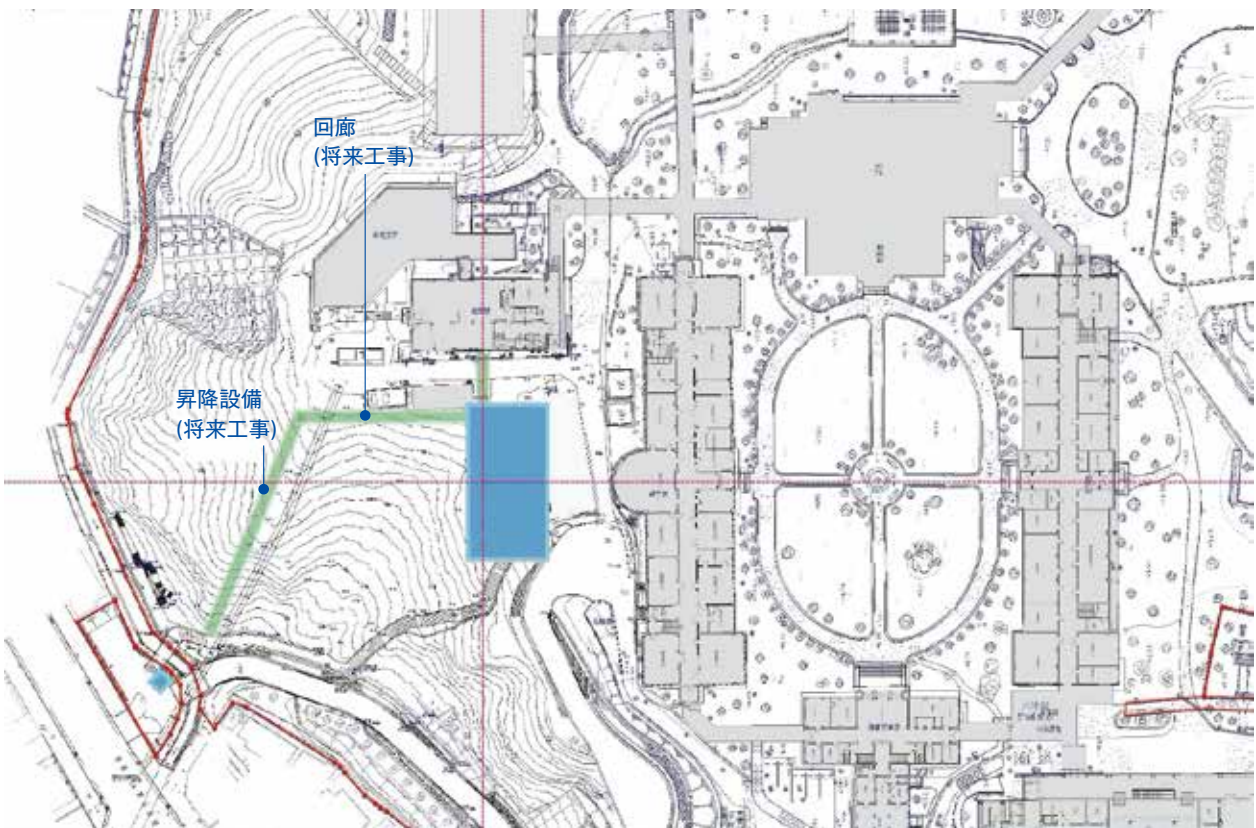
理学館西側地域再整備計画概要

コンセプト

- 西側エリアに開かれた新しいキャンパスゲート
- 新棟計画により重要文化財を活かした新しい顔づくり
- 歩車分離と高低差解消によるアクセス性と安全性の向上



平面図



創立150周年記念募金を開始します

2023年度より、創立150周年記念募金を開始いたします。
いただいたご寄付は、創立150周年記念募金事業に活用させていただきます。

募金の概要

【受付期間】 2023年4月1日～2028年3月31日

【目標金額】 5億円(5年間)

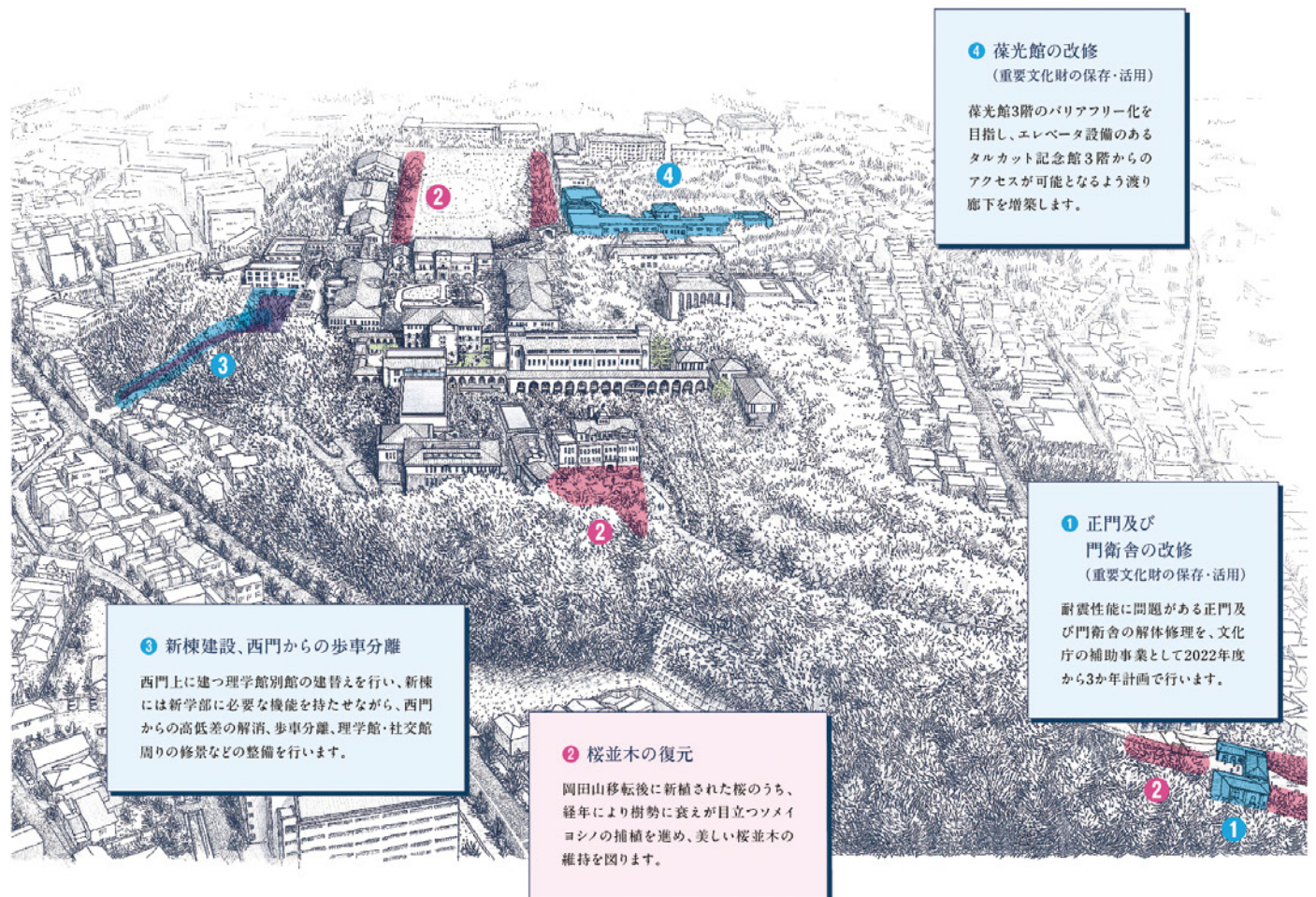
【受付金額】 1口(10,000円)から ※定期でのご寄付の方は年間10,000円から

【募金用途】 創立150周年記念募金事業(下記)に活用

創立150周年記念募金事業

キャンパス再整備

「実用と美を兼ね備えた」オリジナルのヴォーリズ建築群を新たな教育プログラムに一層活かすために、築後50年を経た校舎等のリノベーションを含む再整備を進め、キャンパスの魅力増進を図ります。



学生生徒支援

教育プログラムの充実、新しい学びへの支援、ユニバーサルマナープログラムの実施 等

その他

あゆみを伝える150年史の編纂 等

校地・校舎

岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 145,549.62m²



- 1 正門
- 2 音楽学部 1 号館
- 3 音楽学部 2 号館
- 4 ジョージ・オルチン記念音楽館
- 5 エミリー・ブラウン記念館
- 6 文学部 1 号館
- 7 文学部 2 号館
- 8 デフォレスト記念館
- 9 図書館本館
- 10 理学館
- 11 総務館／エミリー・ホワイト・スミス記念講堂
／ソールチャペル
- 12 文学館
- 13 理学館別館・心理相談室
- 14 社交館
- 15 新社交館
- 16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
- 17 第一体育館
- 18 第二体育館
- 19 第三体育館
- 20 テニスコート
- 21 購買部
- 22 シェイクスピア・ガーデン
- 23 図書館新館
- 24 ジュリア・ダッドレー記念館
- 25 エッジウッド館
- 26 ケンウッド館
- 27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
- 28 岡田山ロッジ
- 29 大学クローバー館（クラブハウス）
- 30 茶室（松風庵）
- 31 ミリアム館
- 32 汽罐室と煙突
- 33 アンジー・クルー記念館
- 34 コミュニケーションセンター
- 35 葆光館（中高部）
- 36 ヴァージニア・クラークソン記念館
- 37 タルカット記念館
- 38 めぐみ会館（同窓会館）
- 39 Kobe College International Students House

● は重要文化財

表紙写真提供：北條 敦子